

11年後のとうと、公田のようには、金	猪膽汁導方	盛 煎導方	大承氣湯	調胃承氣湯	麻仁丸	小承氣湯	白虎湯	白虎加人参湯	訂正仲景全書傷寒論註陽明全篇目	御纂殿京金鑑卷四
							年		角月錄	

な多語与合金、先り 斯琴為一丁金盤合詞 丁马中居名書道所生人師土 方正仲哥会等傷寒論主馬明会 麻黃連軺赤小豆湯 豬苓湯 梔子葉皮湯 尚陳清湯 土瓜根導方 小夜网络 白虎器

御纂醫宗金鐵卷 印奏皆六公監 辨陽明病脈證并治全篇 經病 此 太陽之表未罷兼見頭 中身熱煩渴目痛鼻乾 陽明證 仲景全書傷寒 陽明府病也而其候各有 明主裏內候胃中 已罷 也 潮熱蘑語手足 悉傳陽明但見出 一名口, 訂正傷寒論註點 者有陽明之邪未 四 外候 痛惡 腋 不得 肌 熱有汗 泄 寒無汗之太陽證者有太 规 肉故有病 經病則有邪已傳陽 然汗出腹滿痛大便鞭 不惡寒反惡熱者此陽 心煩 經病府之分如 맯 口揭引 明 論 而

介金の甲二人の型ノラ 所為大便難者是也其治陽明經病則以葛根湯或 加葛根陽發之或以白虎湯清之或以柴胡白虎湯和之 隨其證而施之可也其治陽明府病雖均為可下然不無 實是也有少陽陽明謂病已到少陽法當和 利小便亡其津液胃中燥熱復轉屬陽明致大便結煉者 太陽之邪一傳陽明遂入胃府致大便不通者所爲胃家 鞕者所爲脾約是也有正 中乾燥太陽之邪乘胃燥而轉屬陽明致小便反數大 陽明謂太陽病或發汗 熱往來以苦而嘔目眩 1 或吐或下或利小便亡其津液胃 耳聾之少陽證者府病則有太陽 陽陽 明謂陽氣素盛或有宿食 解而反發汗

層十草ク量は一両白ク可也比場明病之大格也茲以

在經在府二者詳疏於篇悼讀者易為分别則臨證施治 **瞻**汁導之量其病而治之可也此陽明病之大略也兹以 輕重之分故或以三承氣湯下之或麻仁先通之或蜜煎

明之爲病胃家會

等 等人

陽明之為病胃家實是也 註陽明經內以候胃外以候肌言陽明之為病由太陽之邪 傳於其經則為陽明病外證由太陽之那傳人胃府則為

胃家質也

一年 多名图 二、人一的四 誰方有執口陽明經也胃府也實者大便結為鞭滿而 出也雖則遲早不同而非 | シープロエ傷寒論註場明今篇 日數所可构也

傷寒三日陽明脈 註方有執曰傷寒三日該中風 多馬二八分銀 計傷寒一日太陽一 之大脈也葢由去表傳裏邪熱 陽明之浮大亦不兼少陽陽 第 非必以日數构也此云三 常着 D 一日陽明三日少陽乃內經言傳經之 日 明之限大 而大約言也城大者陽 陽明蘇大者謂不兼 入胃而成內實之診 而正見正 明氣

血 沈 俱多也 明乃多氣多血之府風寒傳入邪盛於中故脈 明宗曰此正陽明之正脈也仲景謂三日陽明脈

記しては「太可言ははから」は国用された。

陽明病若能食名中風不能食名中寒 川道を書きたる地画 本太陽初得病時發其汗汗先出不微因轉屬陽明也 **註方有執日此 言由發太陽汗不如法致病入胃之大意** 能陽明之病本自太陽初得病時發其汗汗先出而不透徹 為外證那人所則為胃家實也 之或用蜜煎導法不得直施攻下也 陽之虛雖見大實大滿亦當詳密顧盧或以小承氣易試 乃為汗不如法故未盡之邪因而轉屬以明也邪在經則 太陽之浮紫少陽之弦細或遲疾滑牆虛弱乃屬氣血陰 為陽明邪實之正鹹但病陽明務具此鹹方可下奪或兼 安一日 訂正傷寒論註陽明全篇

有金里与 全金里 今日 能方有執日此以食之能否驗風寒之辨蓋陽明主水穀風 註太陽之邪傳陽明病有自中風傳來者有自傷寒傳來者 能食陽能化穀也寒不能食陰不殺穀也名猶言為也中 寒是胃家處冷藥安理中湯之類个不能食是胃氣質但 汪號目仲景云中寒如傷寒同義非 具寒節也指係真中 如此者非謂陽明自中而然也,亦與原英以小不分其 寒即傷寒之互詞大意推原風寒自太陽傳來其辨驗有 傳來者以寒乃陰邪不能化穀故不能食也 當於食之能否辨之若能食名中風是自中風傳來者以 風乃陽邪陽能化穀故能食也不能食名中寒是自傷寒 -

所中語は可容可容明十十十二部無反題熟出

即算是古人的医人多可記憶與難時明全衛 問日陽明病外證云何答日身熱汗自出不惡寒反惡熱也 **註方有執日此以太陽中風傳人陽明之外證言** 註陽明病有外證有內證潮熱自汗不大便內證也身熱汗 設問日陽明未知其裏之何時傳來必先驗其外之何所 魏荔形曰病有太陽中風不解傳入陽明者何以辨之故 證故不與中風外證同也然陽明之熱發於肌肉必蒸蒸 與中風之外證同而身熱不惡寒反惡熱則知爲陽明外 自出不惡寒反惡熱外證也今行自出是從中風傳來故 而熱又不似太陽之陣庫發熱可知矣 **邓未入射不作鬱熱耳因名中寒實影傷寒無異** U

惡寒將自罷卽自汗出而惡熱也 問日病有得之一日不發熱而惡寒者何也答日雖得之一日 集方有執曰此以太陽傷寒傳入陽明之外證言 並太陽病當惡寒陽明病當惡熱今陽明病有初得之一月 去太陽而入陽明矣此陽明病由太陽中風而傳入者也 去表未盡之邪欲傳陽明不能人持故惡寒必將自罷即 日當自行出而惡熱矣。以外以自由,心美又思 之本證也若身熱行自出竟不惡風寒而反惡熱則府已 見證答曰太陽病有身熱汗自出而惡風者此太陽中風 不發動而惡寒者是太陽去表之邓未盡故仍惡寒也然

サントー

鄭重光日此辨陽明傷寒之外證不發熱而惡寒起自傷 **能否須於此驗之** 程應族曰陽明惡寒終是帶表至於府病則惡熱矣表之 日本外的人生

寒山惡寒將自罷邪過表也卽自汗出邪熱鬱於肌內 開汗外洩也 制制的が大い

問日病有得之一日起初之時不見發熱而但見惡寒者 亦將自罷即自汗 何病也答曰得之一 魏荔形日太陽傷寒亦有傳入陽明者又何以辨之故設 出而發熱此是陽明病由太陽傷寒而 日惡寒雖為太陽傷寒之證而惡寒

印金を受与ってを財政へといり方正傷寒論註陽明全篇 傳入者也可知太陽中風則發熱惡風汗自出爲正病太

傳始雖惡寒二日卽止此爲陽明病也 問日惡寒何故自罷答日陽明岳中主土也萬物所歸無所復 名多图片一人名 就方有執日惡寒一日自止者熱入裏而將惡熱此以正陽 . 註此釋上條陽明惡 寒自罷之義陽明屬胃居中土也土為 自止則是太陽之那已悉歸併陽明此爲陽明病也 萬物所歸故邪熱歸胃則無所復傳亦萬物歸土之義陽 陽明言也一場即黑寒然且神然王林林玩以 明初病一日雖仍惡寒是太陽之表未罷也至二日惡寒 熱為正病也 陽傷寒則惡寒無汗為正病若傳入陽明則必以行出惡 山杨经热州 The same of the sa

ラーラー TR 北、田、公開二二旦の車水之那從而化熱部二

津液胃中乾 也 田多塔尼公温》、美田 計 目何緣 陰傳來之邪亦轉 物 而稟令焉一有燥 程應旄日六經 所歸無所復傳 若利小便皆為 不當徒亡津液 目何緣得陽明 得陽明病答 燥因轉屬 雖 胃實之病答曰由 可正傷寒論莊陽明全篇 去邪而設治之誠當則邪 日太陽病若發汗若 熱無論三陽傳來之邪從而化 致令胃中乾 屬而變熱陰陽之邪皆歸胃土 陽明不更太內實大便難者此 分陰陽而宰之者胃五藏六府皆朝 燥則未盡之表 邪在太陽時發汗若 下若 解而愈矣 利小便此亡 邪乘其燥 熱 刨

不多其一人人名思 4.75 導法之所由分也 以改熱為急此三承氣湯與約九及蜜煎工瓜根 燥之陽明以滋燥 的未經汗下而亦入胃成實也故已經汗下者為奪血 便 益病脾約大便難 無輕重之别牌約自輕於大便難大便難自輕於胃家實 熟因 難卽少陽陽明大 陽 施 明脾約是也日內實卽正陽陽明胃家實是也日大便 治失乞所致若胃實者則其人陽氣素盛胃有宿食 而轉屬陽明為胃實之病者有三日不更衣即太陽 為主未經汗下者為熱盛致燥 便難是也三者雖均為可下之證然不 者每因其人津液素虧或因汗下利 、猪膽汁 之陽明

起と一大川主义北地

川上大文中でで人のいは一大人口言は他実論註陽明全体 問曰病有太陽陽明有正陽陽明有少陽陽明何謂也答曰太 註方有執曰古人大便必更水不更衣言不大便也 復有燥實燥不實之辨所以有不更太之陽明病有內實 之陽明病有大便難之陽明病也其中有虧表屬裏所以 程應施日轉屬層次不止,有表能不能之分而表能入臺 胃中乾燥未必復成內實答云方其太陽初病時下之不 下法有禁有宜受氣有裏真裏娛所以下法有應大應小 有內質之證 當徒亡津液胃中之物去之不盡邪傳陽明而成燥藥故 汪琥白或問太陽病若下矣則胃中之物已去縱亡津液

陽陽明者脾約是出正陽陽明者胃家實是也少陽陽明者發 往多是西方在個一名 行利小便

巴目中燥煩實大便難是

也 註程知曰言三陽皆有入胃府之證也陽明為水穀之海中 註陽明可下之證不止於胃家實也其綱有三故又設問答 液少陽之邪復乘胃燥轉屬陽明謂之少陽陽明大便遊 太陽之邪已到少陽法當和解而反發汗利小便傷其津 熱結謂之正陽陽明不大便內質滿痛名門家質者是也 而難出名大便難者是也 以明之也太陽之邪乘胃燥熱傳入陽明謂之太陽陽明 不更衣無所苦名脾約者是也太陽之邪乘胃宿食與燥

11一个田月 人里加二天生工上上上

印意及与ぶて心監したの記事機能的事業 陽明病鹹浮而緊者必潮熱發作有時但浮者必盜汗出 外證未除則陽明正治之法又不可用矣 府者謂之太陽陽明即經所謂太陽病若吐若下若發汗 即經所謂發熱汗出胃中燥鞕臟語行是也乃胃中邪質 氣微下以和之邪自陽明經傳入門府者謂之正陽陽明 後微煩小便數大便因鞕者是也由脾之飲約故用小承 土為萬物所歸故三陽經皆能入其府邪自太陽傳入胃 也係津液內竭故用麻仁九潤下以和其津液也若三陽 故用大承氣以攻下之邪自少陽轉属胃府者謂之少陽 陽明即經所謂少陽不可發汗發汗則讝語此屬胃者是

行金多日かんぶん 註沈明宗日此陽明證而見大,陽<u>峽也</u>蜒浮而緊太陽表寒 註陽明病在 罷必自汗山當從太陽陽明中風治之宜桂桂加葛根湯 之若見潮熱發作有時之終而與但浮不緊是陽明病而 時之證仍當從太陽陽明傷寒治之宜麻黃加萬根湯汗 解之割之太陽陽明即絕所謂太陽病若吐若下若發 見太陽中風脈也則知是從中風傳來太陽中風之邪未 來太陽傷寒之邪未罷必無汗故雖見陽明潮熱發作有 自汗是陽明證盗汗是少陽證盗汗當是自汗文義始屬 有時者是陽明病而見太陽傷寒脈也則知是從傷寒傳 經城當浮長入府城當質大今城浮而緊潮熱 D

一一人

陽明病經運汗出多微惡寒者表未解也可發汗应桂枝湯 即寒路三心風 註陽明為縣當數大今縣遲汗出多設不發熱惡寒是太陽 註程知曰此言中風傳陽明表邪未解仍

宏用桂枝湯以 風傷衛脈故必汗出也 之理于必是傳寫之遺 惡寒乃是表陽處桂 汗出多之下當有發熟二字若無此二字蘇遲汗出多微 未罷之感潮熱發作有時則陽明裏證已具但浮者太陽 那已解矣今發熱 微惡寒是表猶未盡解也故安桂枝 解肌以發其汗使 八多以完 枝附子場證也豈有用桂枝湯發汗 初八陽明之表邪仍還表而出也 傷無論註陽明全篇

陽明病峽浮無汗而喘者發 有多見らる毎 古陽明病脈應浮大證應汗出今歐但浮表病脈也無汗而 喘美質證也是太陽之邪未悉入陽明循在表也當仍從 仲景法還安用桂枝加萬根湯為是 汪號 者陽明熱而肌腠疎 肌並 從太陽中風例治之又日雖從太陽例治但旣云陽明病 中風緩蜒之所變傳至陽明邪將入裏故 太陽傷寒治之發汗則愈室麻黃湯 目此太陽病初傳陽明經 ラタ I 也 微惡寒者在表風邪未盡也故 汗則愈安麻黃 中有風邪也歐遅者太陽 湯 **衇變遲汗出**

川後三十二月建上、熊川ノ派事中国が明然地

其汗出多者亦為太過太過者爲陽絕於裏亡津液大便因 陽縣微而汗出少者為自和也汗出多者為太過陽縣實因 生張 路 日 陽 明 樂 衛 難 陽明自汗已多則緩去而遲在寒邪之脈傳至陽明發熱 表出不至歸於胃而無所復傳也 必數浮者必實矣設不數不實非胃質也必不勝攻下矣 已甚則緊去而浮在此皆邪氣在經之徵若入府則遲者 魏荔彤日此太陽陽 目痛鼻乾身熱不得眠故云陽明病也 號曰無汗而喘但浮不繁何以定其為陽明病必其人 一是四空 明之證入陽明未深故令其邪仍自 辨辨之全藉於或證風邪之脈傳至

不多是三分金 緊實也陽絕即人律液之互鮮仲景每於亡津液者悉名 慮及此也不去而行在此皆形無色經不 內官之證矣勢不得不用下法故欲發其汗者不可不早 亦爲太過汗出太過則陽極於裏凸津液大便因鞕而成 為太過不解也陽鹹實則熱盛因熱盛而發其汗出多者 此承上條互詳其账以出其證也感陽微謂縣浮無力 熱微微熱蒸表作汗 微也陽峽實謂峽浮有力而盛也凡中風傷寒峽陽微 为为 若汗出少者為自和欲解汗出多者 則

陽明病法多汗反無汗其身如蟲行皮中狀者此以人虚故也 印色及為三下公 財 一一一一 記傷天論話賜明全篇 註陽明病法當汗多反無汗其身如蟲行皮中狀者以其人 歌意也易絕即人能收之互解仲界每於上常收者悉名 將自解汗出多則陰津易致竭絕也 明多有熟越之證謂胃中津液隨熱而盡越於外汗出 明胃經之汗即當顧慮陰津以胃中藏津液改也所以陽 陽膀胱經之汙即當顧處陽氣以膀胱主氣化故也發陽 無陽玩本文陽絕於裏亡津液大便因輕甚明伤寒發太 **胃氣**人虛邪機於太陽之表陽明肌腠不能宜發作汗 也宜葛根湯小劑微汗和其肌表自可愈也 耳然則陽明病不論中風傷寒脈微脈實汗出少而邪

聚则愈口然之刊 熱狀奄然發狂澈然汗出而解者此水不勝穀氣與汗共併脈 陽明病初欲食小便反不利大便自調其、人骨節疼翁易如有 省全海 二分五十二分日 註陽明病初欲食知其從中風熱邪傳來也陽明受邪當小 經藥今係陽明無汗證仍宜用葛根湯主之 莊汪琥日按此條論仲景無治法常器之云可用柱枝加**黃** 魏務形曰陽明病法應多汗今反無汗但見身如蟲行皮 中狀者此邪熱欲出表作汗而正氣衰弱不能達之也 便數大便鞭人小便反不利大便自調知津未傷而胃自 **誉湯郭雍云宜用桂枝麻黃各半湯不知上二湯皆太陽** 即筒屬原際四門中國経液內

1

北北北地地地

山 首を改画に下くと 野血 一人 代しり 訂正傷寒論註陽明全篇 傷寒發熱無汗嘔不能食而反汗出減減然者是轉屬陽明也 司傷寒發熱無汗嘔不能食為太陽之邪欲傳也若無汗為 其人骨節疼為翕如有熱狀是太陽之表未除也在忽也 明所受之邪自淺津未傷而胃自和仍當還表作僻也然 見之脈也 長陽化熱水不勝熱暖汗共併而出所以發狂作解也凡 必待發在一解者此胃中水氣不勝利欲食之穀氣穀氣 忽然發在斌然汗出而解者蓋以太陽傳來之邪本輕陽 和不成裏實也既不放實則在經之邪本輕可自愈也若 將汗解感必先浮今言鹹緊則愈者亦邪還於表欲解應

一直多里下八二金 テヤ 註成無已曰傷寒發熱無汗喔不能食者太陽受病也若反 能已是轉屬陽明也濈凇連綿之意即俗云汗一身不下 反開也 程應施日太陽本證現在而反汗出殲濈然者雖表證未 方有執曰嘔不能食熱入胃也反汗出者肌肉者熱膚腠 **法多汗** 又一身是也 汗出減減然者是太陽之邪轉屬陽明也故經曰陽明底 太陽陽明之表尚在汗之可也今反汗出滩滩然者是那 已轉屬陽明之府可下不可汗也

證者白虎加人參湯主之 傷寒鹹污發熱無汗其表不解不可與白虎湯渴欲飲水無表

註傷寒之邪傳入陽明脈浮發熱無汗其表不解者雖有燥 揭乃大青龍湯證不可與白虎湯即有陽明渴欲飲水熱

證應與白虎者亦必審其無太陽表證始可與也加人參

者以其鹹浮不滑非有餘也且欲於大解熱中速生其津

液也

註鄭重光日此申明用白虎湯之法以白虎但能解熱而不 解表若稍帶外感有無汗惡寒身痛頭疼之表於慎不可

用也

即当然苦气下人吃吃玩人人人工可可工傷寒論莊陽時全層

岞

イノスライン人は人の人 二

白虎加人参湯方

於白虎湯方內加人參三兩餘依白虎湯方

傷寒峽洋消此以表有熱裏有寒白虎楊主之 王三陽云經文寒字當那字解亦熱也其說甚是若是寒

此言傷寒太陽證罷亦傳陽明表裏俱熱而未成胃實之 字非白虎湯證矣

病也歐浮滑者浮為表有熱之脈陽明表有熱當發熱汗 出洞為東有熱之鹹陽明裏有熱質風渴引飲故曰養有

裏俱熱之藥故主之也不加人參者以其未經汗宣下不 熱果有熱也此為陽明表裏俱熱之證白虎乃解陽明表

ジ 良 は、地グと、地グと、東日本

即当然というといいというでは、いからはのののでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いからのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいりのでは、いいのでは、いいりのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいので 湯主之可證此條之非裏有寒矣 魏荔形曰此裏尚爲經絡之裏非殿府之裏亦如備為表 名之又曰厥陰條中有傷寒鹹滑而厥者裏有熱也白虎 京而解猶之暑賜之命得金風而爽故清凉之劑以白虎 知母六兩 樂為裏非指藏府而言也 右四味以水一斗煮米熟湯成去滓温服一升日三服 虚故也 石膏碎 觔 甘草二两 粳米六合 例水風以以

在るな母正なアノコ金一つ名 解柯季曰陽明邪從熱化故不惡 寒能沉內辛能走外此味兩擅內外之能故以為君知母 也煮湯入目輸脾歸肺水精四布大煩大涡可除矣白虎 宮且能土中寫火稼穑作廿寒劑得之緩其寒苦劑得之 苦潤苦以瀉火潤以滋燥故川為臣甘草粳米調和於中 為西方金神取以名湯秋金得令而炎暑自解方中有 平其吉使二味為佐庶大寒大苦之品無傷損脾胃之虚 非苦寒之味所宜也石膏辛寒辛能解肌熱寒能勝胃 故兼浮也蓋陽明屬胃外主肌 汗出熱樂胃中故渴欲飲水邪 D 寒而惡熱熱蒸外越故熱 肉雖内外大熱而未實終 盛而實故鹹滑然楯在經 Z

111

補承制石膏知母之寒瀉火而土不傷乃操萬全之術者 加人参考亦補中益氣而生津也用以協和甘草梗米之

病人煩熱汗出則解又如瘧狀日晡所發熱者屬陽明也歐實 者宜下之蠟浮虛者宜發开下之與大承氣湯發汗宜桂枝湯 註病人謂病太陽經中風傷寒之人也太陽病煩熱汗出則 應解矣今又寒熱如瘧狀每至日肺所即發樹熱日肺者 歸陽明耶抑或尚兼太陽也故又當以鹹辨之若鹹實者 乃申酉陽明王時故日屬陽明也證雖如此當審其果盡

印きれることを監していいいす正像表論註明明全篇 邪已入裏則汗出潮熱為陽明下證宜與大承氣湯下之

氣湯和之愈 太陽病若吐若下若發汗後微順小便數大便因輕者與小承 名金屋でラムを一大工 註太陽病若吐若下若發汗後不解入裏微煩者乃梔子豉 能程知曰病人得汗後煩熱解太陽之邪將盡未盡其人復 揚證也今小便數大便因輕是津液下等也當與小承氣 也宜與桂枝湯汗之 是陽明兼太陽便宜汗而不宜下也 若歐浮虛者那尚在表則寒熱如瘧仍屬太陽當汗之證 恐未離太陽故必重辨其鹹鹹實者可下若鹹浮虛者仍 如瘧狀日晡時發熱則邪入陽明審矣然雖已入陽明尚 E

明朝山上川前川八道と一地大村

印象没有に人公公の一次の一口で復奏論註陽明金篇 小承氣湯方 大黃四兩 喻昌曰微順小便數大便因輕皆是那漸入裏之機故用 胃雖實非大實也以小承氣湯取其和也非大攻也 小承氣湯和之 湯和之以其結熱。未甚入裏未深也 者比然煩旣微而小便數當由冒家失潤燥氣客之使然 程應能曰吐下汗後而見煩證徵之於大便轉固非虛煩 已上三味以水四 湯官更衣不兩者 盡飲之若更衣者勿服之 升煮取一升二合去浑分温二服初版 兩去 松實者炙大

趺陽峽浮而濇浮則胃 其脾爲約麻仁凡主之 不美国三三五岳 年1 註程知旦三胃**峽**浮濇不可大攻宜用麻仁九澗法也趺陽 津少而小便數脾主為胃行其津液者也胃陽强 胃峽也在足跗上 以麻仁丸主之養液潤燥清熱通幽其不敢恣行承氣者 約者謂牌爲邪所 便數陰陽 趺陽胃經衇也趺 相博 則 氣强濇則小便數浮濇相搏大便則鞕 動脈應手浮則陽熱盛而胃强濇則 約束不能為胃行其津液故名脾約也 熱盛而液竭矣故大便則襲也其名為 陽鹹浮而濇陽浮則胃氣腥陰濇則

即食沒有之下心的一人大四訂正傷寒論註陽明全篇 麻仁九方 當下而當潤之 矣所以然者以其為太陽陽明非正陽陽明胃家實者比 程應旄曰麻一仁光潤燥通幽傷寒不可必行大承氣可知 也推之少陽陽明其不可以正陽陽明胃家實之法治 弱不能為思行其津液故約其食物如一二彈九也此不 更可知矣 以為胃中之陽而扶脾之陰也 陽强故鹹浮脾家之津液少為陰弱故鹹濇用麻仁丸者 汪號曰以胃强脾弱為脾約作解蓋以胃中之邪熱盛為

傷寒吐後腹脹滿者與調胃承氣湯 在多图下与鱼 註傷寒吐後胸不脹滿而腹脹滿者是表邪已盡胃中壅熱 解方有執日麻子杏仁能潤乾燥之堅积實厚朴能導固結 大黄土皮 之滯芍藥飲液以輔潤大黃推陳以致新脾雖為約此能 度 右六味蜜合丸如桐子大飲服十九日三服漸加以和為 故也宜與調胃承氣湯下其熱而和之以無鞕痛故 厚朴去皮 **芍藥** 宇觔 DULL I 枳實半觔 杏仁熬别作脂

大小 承氣也

註程知曰言吐後腹脹滿宜調胃也熱在上焦則吐吐後腹 脹滿則邪不在胸其為裏實可知然脹滿而不輕痛自

宜用急下之法但與調胃承氣和其胃熱可耳內經云齒

滿 程應施口吐傷津液燥氣不能下達遂成土鬱是以腹 脹腹大皆屬於熱也

用謂胃承氣一奪其變可耳

調胃承氣湯方 大黄四兩去

草二兩

印真な言にとかかし、「丁豆傷註陽明金篇

右三味以水三升煮取一升去海內芒消更煮兩沸少少 芒消半升

不多医子子生 老口

温服之

解方名調胃承氣者有調和承順胃氣之義非若大小承氣

專攻下也經曰熱淫於內治以誠寒人淫於內治以苦寒 君大黃之苦寒臣芒消之鹹寒二

味並與攻熱瀉火之力

備矣恐其速下故佐甘草之緩又恐其過下故少少温服

之其意在不峻而和也

陽明病不吐不下、心煩者可與調胃承氣湯

註陽明病謂已傳陽明不吐不下心煩者謂未經吐下而心 順也其為熱盛實順可知故與調冒承氣湯為熱而順

除地

しま、田川日子人

三門目かり人

陽明發熱汗多者急下之宜大承氣湯 即至爱多三人人 監一人的四首正 註成無已日吐後心煩謂之內煩下後心煩謂之虛煩今陽 註陽明病不大便發熱汗多不止者雖無內實亦當急下之 熱熾故可與調胃承氣湯 **喻昌曰胃氣及津液 旣不由吐下而傷則心煩明係胃** 明病不吐不下心煩則是胃有懲熱也與調胃承氣湯 喻昌曰汗多則津 急務也宜大承氣湯 小其鬱熱 因陽氣大蒸於內 恐致陰液暴亡於外故以全津液為 液外滲加以發熱則津液盡隨熱勢恭 下之 傷寒論註陽明全篇

在全国里河 会在一名口 大承氣場方 大黄四两 裏熱熾盛之極蒸騰胃中津液盡越於外非逐奪其邪以 沈明宗曰陽明裏實以潮熱微汗為正兹見發熱汗多乃 蒸騰達於外更無他法以止其汗惟有急下一法引熱勢 救津液不可故宜大承氣湯急下也 從大腸而出庶津液 可緩救陰之下不可 程應能曰此等之下皆為效陰而設不在奪實奪實之下 右四味以水一斗先煮二物取五升去滓內大黃更煮取 厚朴去生 皮触象 不致盡越於外耳 緩 枳實五枚 芒硝三合

门室食吃了·八人区的班 (宋) 可訂正傷寒論註陽明全篇 解諸積熱結於裏而成滿搖燥實者均以大承氣湯下之也 集柯琴曰諸病皆因於氣藏物之不去由於氣之不順也故 滿者腹脇滿急順脹故用厚朴以消氣壅痞者心下痞塞 審四證之輕重四藥之多少適其宜始可與也若州重劑 潤燥軟堅實者腹痛大便不通故用大黃攻積瀉熱然必 服 便堅故用根實以破氣結燥者腸中燥屎乾結故用芒消 輕則邪氣不服邪輕劑重則正氣轉傷不可不慎也 攻積之劑必用氣分之藥因以承氣名湯方分大小有一 一升去海內芒硝更上微火一兩沸分温再服得下餘勿

省至多度百二八二年 第一年 四 芒消之鹹寒而以酒制之若小承氣不用芒消則亦不 義焉厚朴倍大黃是氣藥為君名大承氣大黃倍厚朴是 程知曰調胃承氣大黃用酒浸大承氣大黃用酒洗皆為 而後积朴除其痞滿若小承氣以三味同煎不分次第同 **丙夫黃再煮取二升內芒消何哉蓋生者氣銳而先** 者氣純而和緩仲景欲使芒消先化燥屎大黃繼通地道 因名曰大味寡性緩制小其服欲穢和胃氣也因名曰 氣藥爲臣名小承氣味多性猛制大其服欲令大瀉下也 且煎法更有妙義大承氣用水一斗煮朴枳 一大黃而煎法不同此可見仲景微和之意也 取五升去洋

印言於受了二下人以 於此一人以下可 言是 像果論註陽明全篇 陽明病下之心中懊憹而煩胃中有燥屎者可攻腹微滿初頭 註陽明病下之後心中懊憹而順者若腹大滿不大便小便 註方有執曰可攻以上以轉失氣言懊慢悔憹痛恨之意蓋 藥力不足以勝病燥鞕欲行而不能放日可攻言當更服 攻也誤攻必變脹滿不能食飲水則歲等逆矣若果有燥 數知胃中未盡之燥屎復鞕也乃可攻之若腹微滿不可 揚以促之也腹微滿以下以不轉失氣言頭鞕後溏裏 **屎宜下者以大水氣湯下之**

得病二三日蘇弱無太陽柴胡證煩躁心下鞕至四五日雖能 食以小承氣湯少少與微和之令小安至六日與承氣湯 不多面型与合意一生中 攻又曰便輕與燥屎不同便鞭者大便實滿而鞕燥屎者 虚煩也當與梔子或湯若胃有燥屎則非虛煩故可攻腹 程應施曰末句乃申可攻句以決治法 承氣着若燥屎則無不用芒消之鹹寒也 輕也故曰不可效之言皆止湯勿服也 胃中宿食因胃熱而結為燥光之尿也故便鞕猶有用小 不甚滿則無必攻之法有燥屎則非先鞭後溏者也故可 程知曰言有燥屎即可大攻下也下後心中懊憹而煩者

成轉文之必連須小便利屎定轉乃可攻之宜大承氣湯 若不大便六七日小便少者雖不能食但初頭颠後必濟未定 註得病二三日無太陽少陽證煩躁心下輕至四五日不大 註方有執口太陽不言藥以有桂枝麻黄之不同也少陽言 令其小安次日仍不大便繼與小承氣湯促之若六七日 胃和能食不可輕下祗可與小承氣湯少少與而微和之 便若稣大屬正陽陽明胃實之證也下之無疑今縣弱雖 **顿乃可攻之宜大承 氣湯** 未定鞕如大攻之初見鞕復必溏也須待小便利知屎定 竟不大便而小便少者即不能食亦屬胃中尚未乾燥 だけれている。ローゴを優美論註陽明金篇

名祭置いる私一先日 藥以再主柴胡也凡以此為文者皆互發也以無太少二 張聯曰此段之能食不能食全與辨風寒强弱無涉言能 燥屎而輕下也 湯少少與之和胃中之火令少安後以前藥增至一升去 經證故知此屬陽明以鹹弱故宜微和至六日以下乃歷 食者不可以為胃避而輕下不能食者不可以為胃中有 弱之胃其禀素虚而爲日又未久也 腸中之結旣用小承氣矣而又滅去分數接續投之以鹹 程應施曰能食以結在腸間而胃火自盛也先以小承氣 叙可攻不可攻之節度也

いこりとしてはいるがした

熱者此外欲解可攻裏也手足減然汗出者此大便已輕也大 泄下 與承氣湯若腹大滿不通 承氣湯主之若汗多微發 熱惡寒者外未解也其熟不 湖未可 陽明病脈遲雖汗出不惡 即行於沒可一人之形的一一記一個明論註勝明全篇 註陽明病脈遲雖汗出不惡寒外證欲解而脈不實尚未可 滿湖熱熱聚於中也手足減然汗出大便已凝熱結於下 也 也 攻也若其人身重熱因於體也短氣而喘熱壅於上也腹 若汗出微發熱惡寒者則外猶未解也其熱不潮去 所為外邪已解內質已成始可改之主以大承氣遏可 寒者其身必重短氣腹滿而喘有潮 者可與小承氣湯微和胃氣勿令大

在全国的一名企一名四 註方有執日湖熱陽明 王於申酉戌故熱作於此時如潮之 小承氣微和之也陽明病脈遲證兼汗出不惡寒身重短 氣腹滿而喘似屬可攻然必有潮熱者為外證已解裏證 林滿曰此節辨極進內結之或宜大承氣攻之或但可以 燥實而蒸蒸騰達於四肢故曰大便已輕也 奚疑若汗 出雖多猶 見發熱惡寒 則表 尚在也其熱不潮 祗宜與小承氣湯微和胃氣勿令大泄下蓋以鹹遲故也 猶未實也不可與承 **氣場即有裏急腹大滿不通**等證亦 已具手足減然汗出者為大便已轉主以大承氣湯攻之 有信也手足漲然而汗出者牌主四肢而胃為之合胃

後必應不可攻之攻之必脹滿不能食也欲飲水者與水則嗾 陽明病潮熱大便微鞕者可與大承氣湯不鞕者不可與之若 轉失氣者此有燥屎也乃可攻之若不轉失氣者此但初頭鞕 不大便六七日恐有燥屎欲知之法少與小承氣湯湯入腹中 其後發熱者必大便復鞕而少也以小承氣湯和之不轉失氣 印を多ずららかとりない。 註陽明病潮熱大便微鞕者可與大承氣湯不鞕者不可與 便非必下之鹹雖內結亦豈大承氣所宜哉 不通亦祗可與小承氣微和勿令大泄下此何以故脈遲 汗亦非手足濈然之汗安可與承氣以攻之乎即腹大滿 **塩寒論計場明全篇**

和後軍与全國一名四 能方有執曰此以削熱 轉失氣次第而詳言之以決當下之 之也若不大便六七日恐有燥屎欲知之法少與小承氣 氣湯和之可也故凡服承氣湯不轉失氣者恒不可攻也 必寒氣乘虚上並脹滿不能食也欲飲水者得水則處亦 此蓋仲景戒人不可輕下之意 由虛無之氣上逆不能化水而下輸也若其後所發謝熱 穢氣此但 初頭與後 必塘是 尚未成鞭也不可改之改之 湯湯入腹中轉失穢氣則為有燥屎乃可攻之若不轉失 不退必是大便再鞭但已經下後所輕者無多祗以小系 候也轉失氣反尼山也脹滿藥寒之過也噦亦寒傷冒也

力を重要がある。

喻昌曰若腹中氣仍不轉則不但用大承氣大差卽小承 復襲而少者重下故也未向重致叮峥之意

氣亦差矣

與曰乃可攻之不可攻之曰少與小承氣曰以小承氣 程知曰上條曰外欲解可攻裏曰外未解未可與承無目 可與小承氣微和胃氣勿令大泄下此條日可與日不可

之慎不可改多少商量慎重之意故惟手足識然汗出 便燥頓者始主之以大承氣若小承氣猶是微和胃氣之

法也

江號曰轉失氣則知其人大便已轉腸胃中燥熱之甚故 こでは 曜人といい 訂正 信要論註機明全篇

又不大便鹹反微酒若裏虚心為難治不可更與承氣易也 陽明病臟語發潮熱鹹滑而疾者小承氣湯主之因與承氣湯 在复数是了金额一个名四 一升腹中轉失氣者更服 註陽明病臟語潮熱蘇滑而疾者是可攻之證歐也然無濫 之宜先與小承氣湯一升試之若腹中轉失穢氣則知腸 嚴然之汗出與小便數大便轉燒實等證則不可驟然致 中燥屎已輕以藥少未能處下所轉下者但屎之氣耳可 其風不外宣府轉而下不轉失氣則腸胃中雖有熱面濟 孔未至於燥此但初頭颠後必溏也 更服一升促之自可下也若不轉失氣則勿更與服候明 一升若不轉失氣者勿更與之明日

潮熱不惡寒獨語如見鬼狀若劇者發則不識人循衣摸牀楊 傷寒若吐若下後不解不大便五六日上至十餘日日晡所發 禁方有執日滑以候食故為大便鞭之診疾者屬裏熱也微 集方有執日滑以候食故為大便鞭之診疾者屬裏熱也微 をかっているとかり 也 是裏虛無氣不能承送故為難治所以不可更與承氣湯 者陽氣不充無以運行濇者陰血不足無以潤送故曰陽 微不可下無血不可下此之謂也 目仍不大便診其鹹仍滑疾則更版之今鹹反見微濇則 張路曰此條鹹滑而疾有嚴語潮熱而無較滿實證咸宜 以小承氣憑下之下之而鹹反微濇證變裏虛故為難治 でいる。日前 傷寒論註點明全篇

谷复图了金髓一看四 氣湯主之若一服利則止後服 而不安微喘直視感应者生酒者死微者但發熱臟語者大承 並傷寒若吐若下後津液已亡而表不解邪因入裏不次便 按趙嗣真日活人書云弦者陽也濇者陰也陽炳見陽飯者 豈有必生之理惟滑脈為陽始有生理滑者通濟者塞凡 物理皆以通為生塞為死玩上條脈滑而疾者小承氣主 生在仲景歐法中弦潘屬陰不屬陽得無疑乎今觀本文 内鹹皮者生之弦字當是滑字若是弦字**並**為陰負之鹹 五六日上至十餘日仍不大便日晡所發潮熱不惡寒者 | 蘇微治者裏虛為難治益見其談

用各个公司了一人包以四一人关 日 司王 秦論註陽明全舊 按循衣摸牀危惡之候也一以陰氣未竭為可治如太陽中 湯下之若一服利即 潮熱譜語不大便之證而無前神旨等泉者宜以大承氣 亢陰微孤陽無依神 泉者則不識人循衣模狀驚傷不安微喘直視見一 者為實堪下則生潘者為虛難下則死若病勢微者但 存陰液自可愈也若因循失下以致獨語如見鬼狀病勢 陽就之極為可攻如陽明裏熱成實循衣模牀飯滑者 風火劫變逆捻衣摸 此乃表邪悉能裏熱漸深也仍宜大承氣湯湯盡餘邪以 外,便利者生不利者死是也 止後服蓋恐其過也 明擾亂之象當此之際惟診其鹹滑 一切場

石金盛といるを一名口 註喻昌曰此條舉譜語之勢重者為言而勢重之中復分二 等劇者主死微者主生故以大承氣湯下之 之愈者不少不可概謂陽極陰竭也 之不足也劉守真好以承氣治熱病法雖祖於仲景而辨 也以獨參湯救之汗多者以參者湯厥冷者以然附湯治 濇者死是也大抵此.證多生於开吐下後陽氣大虛精神 證其未能如此詳悉故開後人鹵莽之端又曰喘頭氣欲 程知曰其全善治循不模狀何以補益得愈亦因其餘證 失守經曰四肢者諸陽之本也陽虚故四肢發亂失所倚 上脫機喘者邪實於內而又不能大喘也不識人類衣摸

上方上成了一村北西公南城市不行

陽明病本自汗出醫奧重發汗病已差尙微煩不了了者此大 潮熱也獨語者即譫語也病人自言為誰獨語如見鬼狀 則喘直視則邪干臟矣故其生死之機須於鹹候決之 戴府不通故脈濇者死也 欲絕也內經所謂三陰三陽五藏六府皆受病柴衛不行 氣故不識人循衣摸來者陽熱偏勝而躁動於手也惕而 乃陽明府實而妄見妄聞劇者甚也成註云熱甚昏冒正 汪琥曰日晡所發潮熱者府實燥甚故當其經氣王時發 不安者胃熱冲膈心神為之不寧也又胃熱甚而氣上逆 床心欲絕也動傷不安肝欲絕也微喘肺欲絕也直視腎

便數少以津液當還入胃中故知不久必大便也 幾行若本小便日三四行今日再行故知大便不久出今為小 かんないろん の タリ 便必鞕故也以亡津液胃中乾燥故令大便輕當問其小便日 註 陽明病本應自汗出 醫誤以為風邪更重發汗病已差尚 人則出蓋小便數少則津液當還胃中故知不人必大便 以重汗亡津胃中乾燥故大便鞭本無宿食也則當問其 自出不須藥也 小便日幾行若本一日三四行今日祗再行可知大便不 微順不了了者此大便必轉故也然無或滿或痛之苦者

並方有執曰水穀八周其精者為津液粗者成植岸水精滋

一ついまりり

陽明病自汗出若發汗小便自利者此為津液內竭雖鞕不可 攻之當領自欲大便宜蜜煎導而通之若上瓜根及大豬胆汁 註此承上條詳其義以明其治也陽明病自汗出或發汗小 乾燥結鞕而難出也然二便者水穀分行之道路此通 被塞此塞則被通小便出少則津液還停胃中必大便潤 汗與小便過多者皆能奪乎津液所以植海之為大便者 便自利者此為津液內 腸胃之外清者為津液濁者外而為汗下而為小便 **企**財Ⅲ ▼ 好可言正傷寒 論註陽明全篇 **揭雖大便鞕而無満痛之苦不可** 淵定

不全国产力工品一个山 其成無已日津液內竭腸目乾燥大便因鞕此非結熱核不 或豬膽汁清熱潤燥皆可為引導法擇而用之可也 之時則用蜜煎開竅滋燥導而利之或土瓜根宜氣通煙 故自欲大便但苦不能出耳須有此光景時方可從於薄 程應施口小便自利者津液未還入胃中津液內竭而鞕 張路口凡條多汗傷津及屢經汗下不解或尺中歐遲弱 攻之當待津液還胃自欲大便燥屎已至直腸難出肛門 法漬帽其腸腸間則水流就濕津液自歸還於胃故不恒 元氣素虛之人當攻而不可攻者並宜導法 可攻宜以潤藥外治而導引之

蜜七合一味內銅器中微火煎之稍凝似鈴狀攪之勿今焦 著欲可允併手捻作挺子合頭銳大如指長二寸許當热時 內臺方用蜜五合煎凝時加皂角末五錢離捻作捉以 急作冷則硬以内穀道中以手急抱欲大便時乃去之 汁成油潤穀道内之 便出宿食惡物甚效 大豬膽 大便通而小便亦從內轉矣 枚寫汁和法酷少許以灌穀道內如一食須當大 では、丁丁で傷寒、流き陽明を痛

傷寒六七日目中不了了晴不 和多野田二八白金 此為實也無下之宜大承氣 瓜根方 內臺方不用 上瓜根不能烊化 中以手將膽捻之其汁 **吹**入 肛門 内 此 與 上 豬 土瓜即俗名赤電也肘後方治大便不通採根搗汁 少陰病得之二三日口燥咽乾急下之宜大承氣湯 如挺內入穀道中誤矣蓋蜜挺入穀道能烊 缺 醋以小竹管挿入贈口留 如 削 自入 挺 膽汁方同義內臺方用土 湯 **禾**17 用 內此方用之甚 之恐失仲景製方之義 無表裏證大便難身微熱者 頭用油潤 化 而 瓜根 内 借 便 削

一くはえりとりとし

齨 当家政哲学で全 故 地 मित 證 和 下 因 者是 也 雖 晔 陽 之 熱 水 睛 此為 7 勢甚 外。 必 轨 pf 證 無陽 朦 监 無 也 而 睛 質也急以 依 脯 了 急下之是 水 和 速 苔 證 爲 不 爲 躁 消 惟 胃場 陽 冒自 之 炒 14 猶 和 一訂正傷寒 身 證 暸 者 不 腎 大 謂 焚 微 所 也 T 下 水 熱 竭 承 腈 論註陽明 其 ार्गा 津 氣 也 傷 对 死 熱 水 液 無 問 此 也 活動 場 寒 既 不 熱 下 满 10 能 驳 目 1 七 痛 将純 也 中 結 能 到 鴻 神 明 带灯 不 四 祇 E 主 陽 大 昏 火 故 目 了 2 例 救 2 中 水 了 便 凤门 不 漸追 其 陰 難 火 緩 必 This 不 觚 亦 購 待 則 了 熏於 俠 全 惡 腎 其有 r 和 熱 2 腈 档 水

漏 喻 道. 結 衇 目 悉下 昌 上繋兩 於鼻上 越 1 水 中 明 目 於外 日少陰 ・不アア 也 Ŧ. -111 义 樞 鱼 牙区 合 目 目 有急 病 腹 凌 腈 於 中 央 情 满 水 陽 太 不 陽 下 陽 津 生 諸 陽 明 明 和 理 三法 結 明 鹼 太 之 之 知 如 亦 於 陽 筋 IE 管 身 内 有 M 屬 爲 其 急、 救 在 也 支 於 循 目 意 下 肾 者 自 冰 目 阳 腈 This 出 壶 水 10 綱 腹 法 档 頸 陽 於口 人 不 7 本 明 以 任 飲 精 俠 經 寫 津 救 鹼 循 津 神 口 池 水 目 枯 合 注 15 竭 面 於 液 於 中 水 頫 汧 那 以 爾

州两 有 1 其 經 如 魏 和 張 国 此 便 機 傷 表 荔 急 錫 爲 已兆 寒 裏 不 Thi 161 不 ル 駒 實 發其 六七 利 不。 無 日 之 兼 也 T 他 陽 所 陽 急 以 唇 便 1 目 訛 明 以 火 トン 大 朦 IJ 乍 太 明 獨 燥 抑 亢 難 2 便 自 赐 於 屎 亢 極 宜 乍 鞕 黎 荅 陽 陰 E 應、 極 易時 罷 ifij 以 此 明胃 K 水 之 承 難 致 證 陽 胃 陽 欲 實應 氣 身 睛 有 名 水 明 鲍 枯 失 爲 微 湯 已成 所 而 有 故 發見端 熱 其 碳 晴 使 下 救 Ping 熱 光 其 俱 不 埀 目 昌 荅 目 此 詳 利 絕 11 則 沃 也 昏 倪 2 考 不 胃質 處體 順 陽 熱 其 陰 了 队者 盛 朦 明 鹹路 Y K 沫 前 刻 認 也 而 盛 其 塘 矣 循

屎 註集 也 林 微 宜 利 如 瀾 能 滿 熱 明病 大 熱 Ifij 禅更 痛 臥 併 者 大 目 不 承 方 旣 亦 目 陽 熱。 便 梗 氣 之 盘 此 微 可 必 也 入 乍 不 東 有 姚 攻 證 君 此 難 在 小 不宜 時 燥 之 皆 也 乍 熱 便 ZI 何 屎 喘 易 自 不 唱品 宜 派 地 妄 者 者 利 熱 大 乍 目 動 盖 熱 熱 而 大 不 龚隹 結 乘 熱 承 便 必 在 能 當 肺 乍 以 液 氣 便 將 湯 易 手 鞭 地 2 鄭 队 欲 动 冒 则 T 3 110 故 按 作 有 徽 結 便 者 也 2 2 與 臍 自 燥 市市 熱 Thi 不 不 腹 愈 竭 屎 昏 乘 液 利 机 未 有 心 也 也 竭 的 鞭 便 狂 塊 也 小 不 自 不 方 能 便 鞭 漸 雕 時 臥

逐 裏實爲急安可 復 以 小 便 利展 定鞭 始可 攻之常法

哉

執 難 汪 有 2 便 琥 伏 燥 時 證 不 於 利 屎 則 云 而 曰 内 結 前 併 大 小 此 徐便皆 積 出 便 不 便 條 得 病未 於下 故乍 乍 禾小 發洩 難 則 澗 易, 不 乍 大 希亚 也 氣 其 通 易 便 1 後 攻 大 極 何 鞕 गिग 條 衝 壑 便 以 此 有 爲 結 辩 於 知 有 燥 治終著 云 燥 其 F. 燥 屎 涸 以 屎 有 屎 万岁 故時 氣 翌 燥 醫 乃 乘 於 寒 理 屎 人 於心 大 之常 有 其 玑 不 微 易, 腸 촒 未 肺 禁 堅 大 討哉 Z 今 人實 大 滿 中 稅 結 故 沙河 之證 熱 书 旣 故 或 15.

喘

也

不

得

臥

者

胃

有

燥

屎

擾

即

胃

和

則

队

位監

山

記

傷寒論註陽的

此 者皆是有燥屎 之 徽 故云宜 一大承氣

不大便 也

不大便五六日繞

臍

痛

煩

躁

發

作

有

時者

此

有

燥

屎

故

故 繞 不大 臍 痛 出 便 煩躁 五六日 發 繞 作 臍痛 有 時 者 者 是 是 腸胃 燥 屎 羰 中 熱土 燥 屎 攻 結 貝订 無 去 煩 路 躁

註集 大承氣 湯下其 燥 屎 大 便 和小 自 可 愈 也

几

病

之人而證

犯如

此

者則皆當如

攻則不煩

躁

故

發

作

有

時

地

不

須

以小

承

氣

湯試

有執曰病 治之此示人 辨 凡 胃實之大盲 也

屎 方不 談攻 公所以於 馬魚 燥屎

應旄曰攻法

必

燥

註 下 有宿食效也宜大承 後六七日不大便煩 則 未盡也所以然者本有宿食故也宜大承氣湯復下之自 斷其不大便當無差 此承上條以明其治 六七日後 路滯濇在 屎 煩躁發作又有時伏 不 之燥與不燥未 可不備無時轉失氣之一端 不大便煩 心可望 處 而 矣 也下之未盡 作痛 复論註別明 亦 氣 不 可 湯 解腹 何大承氣 不 而 知也但繞 解腹 煩躁發 不 满 動 仍满 浦 亦 湯之不 仍當下之乃大下之後 作 臍偏 不煩躁而 也病人雖 有時 痛者此有燥屎 此有燥屎也所以然 則 可 者 知腸胃乾 有繞 因屎氣 攻 不大便五六 即 臍 下之 攻 動

在金属巴河五鱼一港口

愈也

註程知曰大下之後宜乎病解矣乃復六七日不大便煩不

解而腹滿痛此必有燥屎未盡而然蓋宿食因熱復為之

結鞕也

汙出者梔子豉湯主之 明病下之其外有熱手足溫不結胸心中懊憹機不能食但

前陽明經病下之身熱未除手足溫不結胸者是所陷之邪 淺也心中懊憹饑不能食但頭汀出者是陽邪蒸鬱於胸

膈 間也故宜梔子豉湯涌其熱也

程知日其外有熱者經形未解也手足溫者熱八未深也

中しても正し

傷寒嘔 即裏答於云監 魏荔 足雖溫 憹 傷其裏耳 鬱 程 從太陽治也 PJ 仍有熱究不能隨 應 多 俱 饑不能食但 再 雖 旄 凝 形曰表邪未全八裏乃即以爲胃實而遽下 ト且 而無濈然之汗出 塞於胸 日懊憹 有陽明證不可攻之 即不至於全在太 已入 一天 山 訂正傷寒論註陽明全營 裏又不可復發汗 厢 頭 擾胃故饑不能 之上其證已 汗出其陽明蒸蒸之熱爲陰寒之藥所 下藥而蕩 則 陽 是 在表 昭 者候下成結胸而心下 際山於是雖熱而不潮 食熱鬱氣蒸故但 惟 然 者仍在表而下之徒 矣但病仍帶表既 以梔子豉湯 之則 頭 汗 出

盘 光 12

註 寒三陽多有 喧 證 以其風 寒之表 未除胸 中 陽氣

所 便 吧 鬱故皆不可攻下也其乾 而寒熱往 來者屬少陽 而 叩區 多亦 不可攻之其氣逆 也 叩區 冷 而惡寒發熱者屬 雖 祗 有惡 在上而 熱 不 惡 寒 陽 也 歛

實 也

註集 沈明宗曰惡寒發熱之嘔 恶 執不惡寒之 嘔屬 陽 明 屬 然 太陽寒 嘔多 執往來之呢 則 氣已上逆 屬 邪 氣 少 偏 陽

中 侵 風口苦咽 上院或帶少陽 乾腹滿微喘發熱 故 虽能 有陽 明 證慎 惡寒

鄭浮 不 可 攻 而緊若下之 也

腹 满 小便難也

明

即 註集 註 陽 程 满 腹 也 也腹 施 明謂 而 滿 明 也 發 風 矢口 治 緊 病 裏 熱 热 目 台站 太 傷 滿 陽 證 3 此 熱 惡 羽 愈 寫 陽 寒 陽 明 言 寒 則 也 裏證 陽 陽 湖 鹹 明 腹 熱 以 念 血底 熱 大 也 其 入 明 满 四 浮 明 證 中 液 柴 病 此 兼 陽 訂正傷寒論註陽明 而 而 也 風 故 胡湯 爲 緊背 喘 3 明 有 謂 而 風 微 則 11-太 熱 喘 Ti 寒 太 太 陽 以 便 乔口 發 陽 裏 2 而 桂 兼 陽 少 難 下之若 陽 具时 傷 熱 表 未 矣 枝 也 除 然 表 表 加口 表 恶 證 大黄湯 喘 之 裏 寒 也 邪 邪 惟 證 太 即 乘 同 口 TITT 病 陽 苦 從 不 微 虚 之證當 古 裏治 傷 復 兩 四国 貝リ 可 攻 角平 寒 乾 未 图 四因 也 乾 全 故 而 證 少 之 遞 審 陽 腹 小 也 陽 裏 熱 明 血胶

浮發熱 陽明 熱 在 湯主之若 身 堰 全多医 重 病 儒 满 矣 程 渴 顺底 證 故 に 兼 應 欲 之 發 以重亡津 之华表牛 浮 有 旄 Mi 洞 飲 則 無 目 汗 mi 金 順 水 欲 胃 緊 此上 則 順 躁 人 中空 飲 條 躁 躁 11. 證 四因 心慣慣 裏若 液 Z 與 便 水 燥 懿 而 故 虚 太陽 然 口 口 無 T. 苦 乾 誤 利 腹 ル 客 口 腹 苦 滿 便 者 大 舌 氣 反 青 讝語 満 難 之 猪 證 燥 動 阳 而喘發 龍 苓湯主 則 乾 者 膈 此 也 實 表 證 若 心中 以 自 邪 與 風 同 虎 加口 乘 一之陽明 熱 寒 太 懊 溫 順 力中 陽以風 虚 澧 持 汗 鍼 躁 内 笙 出 麥 舌上 心心 同 陷 不 其 陽 病 湯 桃 寒持 而 機 明 惡 惕 肝舌 汗 主 腹 故 兆 寒 煩 者 出 益 其樂 有 書 也 躁 反 梔 淌 腹 惡

此承前 也 惡熱而誤 汗 念 助陽邪故 可 與、猪苓湯以 津若發熱渴欲 **衇**浮 全验 條 生 條表裏混淆 以 宣發其義 脈浮 邪已衰 胎 不緊證無懊憹 下之則胃中空虚 大 与 訂正傷寒論註陽明 談語煩 是皆誤下之 而緊誤 汗多 陽明 飲 躁休 衇 以 發其 胃 水 燥 證 明 其治 遇 中 小隹. 惕 錯 杰 小 客氣 慣亂不 汗 發熱渴 宜 雜 燥 便 甚宜 則奪 以梔 也前條表證居多 格芬湯復利其小便 利 邪 熱擾動物 不可誤 者是陽明 自 子豉 液傷陰或加燒 欲 眠也或以證之腹 虎 飲 水口乾 湯 加人 胸 参湯 膈 Th 心中 滋 燥 鈞或 故 可 滿 也

在 在 在 医 日 一 按 明 赤川 豬吞湯 利其小 ifii 陽病 便 小 小便 煩熱有 陽 渴 小青龍湯去半 75 1 明 煩熱無汗 水 而 盆 便利 病 便 涸 渴 利 为关 之小便 水以滋 者 煩 禾川 則 熱 者 而 益 1 無汗 以 桂 可 竭 渴 而 枝 夏 津 11 乾 渴 與 小 五 合 豬 而 力口 液 非 便 110 然 水 陽 渴 利 而 蓄之小 湯蓋 助 明 利 粉 小 病 获 湯 燥 者 便 法當多 冷證 矣 和了 證 以 者宜葛 青 便 汗 寒 也 龍 至 不 也 小 水 胃 湯 沂 便 利 也 燥 滑 因 陽 證 便 汗出 恐 無 病 也 順 水 1 57 熱衛 便 致

印色经司行 註集 喻 證 膈 74 渴 半 熱甚 參 利 旣 少陰陽 矣若前 湯 110 湯 皆陽 夏 不 灰陰陰 加口 少 便白 故 發 同 一多病 花 法 明 湧 盐 而渴 泛 以 之 亦 那 粉 認 以 順 小 梔 見 各 邪 寒 更 U 者以真 熟無 轉屬 與前 異當 訂正傷寒論註 證 加 子 叩區 便 所以 豉 小小 不 乾 條 陽 便 m 詳 利 汗 赤 者 徹 審 明 武 汗 同 m 當以 燥 去 7. ifij 渴 湯 Thi 而 渴 燒 欲 灰陰 則宜 训 渴 汗 小 鋮 刻字 飲 膈 出 者 月。 便 熱斯治 以 陽 俱、 不 2 水 利 用 者當 不 邪 豬 胡湯 惡 者 自 一虎湯以 少少與 消渴 寒 可 反惡 加茯 用 以 110 熱身 解 陰 ना 柴 則 太陰 胡 生 則 愈 碍 重

豨 不 多 医 马 猪苓去 本 湯 服 右 加 程 立亡之患故示戒 加 津 而 七合 五 應 以 渴 更加 行多復 味 不 皮 麥 旄 五组 湯熱在 日三服 日熱在上 以 可 小 水 茯 與猪 便 奪之於外 四 茶 光 升先 冷湯 利 D 焦故 焦故 則宜以 也 煮四味 者以 阿可 膠 用 用 又 落 梔 利 燕 豬 邪傳入 取二升 茶 于 110 豉 便 湯 瀉 陽 奪之於下 去滓 熱在 明 必 滑 问 乾也其汗 焦故 先 阿 A3 膠烊 貝リ 耗 兩各 其 用 碎 津 白 虎 3 液 沿路

解集 性滑 趙 之 也 又患亡陰亡陰者亡腎 桂 一旅亦潤 羽皇 利 以 旨全在益陰 风多 故 《温之是》 則津液 關 利 去 之於加 水之法 津液 但大 熱 眞 仲景製豬 而 煖 特用 陰 便 利 反 於太 腎 水 致 而 不 不専 以行 不苦 佐 耗 可 阿 膠 以 陽 竭 車 不归 其枯 水蓋傷 中之陰與胃家之津液也故陰 滑 二本之渗瀉 論註陽明 水山於陽 用 方 動 110 湯 五苓者以太 削 燥是利 阿 以 小 灣之是滋養無形以行 膠 寒表虛最忌亡場 行 水 質膏養 明 亦尽下通 陽明少陰二 水 少 能 陽職 疏濁 陰用指苓者 而 不 陰 傷陰之善劑 司 執 倘 M 寒水故 陰虚 滋 經水 而 燥 而裏虛 不 滑 遇 熱然 加

4 组 名

形也利水雖同寒溫追別惟明者知之

衇 % 製 前 大心 則 便輕汗多則 反 題有 熱 屬 熱愈汗 **浦**菠 者攻之不令 心 則便 验 難 汗 血底 遲 属 府者 尚 未 可攻

屬 陽 陽明 藏 調腦 血底 也浮屬 裏也 屋府謂 表大 屬 屬裏今太陽 表 也 渡謂小 加灰 、浮之表 便 也 血

未

角罕

浮

而

太

無疑 | | | | | 須先 熮 別明之裏 汗 以 解 又急 外 權 也 乎汗 加加 無 熱實而 1-可也 設裏有熱實藥之 有 脈浮之表 亦但

即 象汗 令攻之 便 **輕裏尚未實** 多亡其津 前小 便 液 不 亦 利 о 大 亦 可 便 坟 革更 人 弘 利 則 バ 便 愈質也若 115 當 角华 机 協族

雖下 北京是百兴 明 註集 病 林 2 E. 則 熱知傳 心下 肯堂目論言 腹 裏 診 明 血辰 瀾 不 自心下 病 也 遲 滿 之公出 猶 自 今飯 食 イ 利 如 與非 難 屬表之義 放 邪人裏故含 大学 可 豆傷架 何 鞕 遲 所 用 衣 也 以然者 遲 已食 下不 颠腹 回攻 飽 衇 飽 爲 浮 H 大 如 則 也 可 鲍 大 者異矣 論計場明全篇 寒中 餞 微 满 鹹 反 便 血底 食 進 傾 發 不 則 Hij 寒 故 柳心 頭 同 内 從 汗反下之為 腹滿 肺 也 熱除利 **月玄** 17复 證 也 與臟對 能 鞕邪 必 **飯**数者 小 化 大 製所 便 已 便 小 葉能 躯 則許 便 遊 而言 則津 以 則 此 聚成實此 此 攻之 雖 為胃熱可 欲 以心 饑欲 小。 下 傷 姐 也

和多是与五角 計集 方有執 蒸發而身黃、 徒 食 張 所 非 日夕 明而至腹偏尤 路 下行故 以然者 濁 下其精粕 修明 難用飽 者 曰下之腹滿如故蓋腹滿已是邪陷 熱濕腹 阳於 微 遲 飽 病 也 為寒不 鸠 1. 气 則 滿發黃 頭眩小 中寒 当念下 水頁 降 12 故 周 是 故 小 穀故食難 健運失度也清者阻 便 也 獨 而反害之耳 者 便 辨也 此 JE 難 匠作 食鬱濕瘀此欲作穀疽之微 経下之 喧黃病 下之腹滿暫 用 飽濕鬱而蒸氣 也穀追水穀之濕 鸣 腹滿 明證本 血灰 於上 减 遲 必 則胃 頃 如 、復如故 升 當 故 故 逝 者緣 不實 頭 陽 Trij

赐 渡 必 明 便 病 洩 然後 大 當 陽 鹹 若 之 之 明 便 屬 遲 下 中 病 旄 法 初 之 周 則 氣 監 地 鞭 寒 內 亦 目 與 此 胃 菜失 後 者 虚 熱 譋 不 址 今 THE 氣 溏 中 畜 則 寒 胃 不 可 空 PJ 成黄 所 能 使 微 日 寒 不 用 見 虚 食 惟當 莊 然 大 以 不 和 血 津 然 能 之 胃 便 小 遲 液 之 食 能 者 胃 便 腹 氣 用 不 食 以 益 小 不 满 虚 充 **季**口 可 胃 虚 1/-利 便 下 也 法 不 其 4 便 手 其 不 之 如 但 滿 利 冷 虚 利 足 可 甘 不 矣 雕 手 濈 水 去 避 手 足 穀 · 乾 遭 然 故 此 無 虚 濈 不 汗 腹 則 益 熱 濈 别 出 然 滿 穀 削 内 然 汗 故 此 氣 如 先 壅 發 也 欲 故 不 溫 非 汗 是 作 得 利 粘 P 固

按 档 档 出 不 便 可 不了 胃 能 以 與 與 下 H L L 溏 世 也 食 寒冷 條 用 是 條 與 所 鱼 此 地 T 上 飽 A Real 故 飽 爲 條 出 無 地 則 便 然 名 中 然者胃 難 此 汗 陽 以 微 食 寒 2 難 1]-在 微 煩 欲 條 同 一不 中虛 H 便 四 煩 明 頭 作 胺 寒 頭 眩 鲍 難 固 胶 能 不 故 痕 欲 不 同 水 陽 能 作 下 同 何 不 榖 不 彼 輸 病 在 以 食 ஓ 姐 中 疸 膀 能 不知 手 欲 分故 2 以 作 胱 腐 而 上 足 故 地。 其 病 穀 熟 以 惟 瀉 水 小 大 不 尚 疸 汗 病 便 世 此 手 穀 便 自台 瀉 欲 足 也 必。 再. 濈 小 初 作 而 鞭 便 條 病 固 然 而 疽

則是無法

病 程 若 雨 作 應旄 城遲其 知病 主 少陰盛則寒而 之开以天地之雨名之 固 緩 脾胃若鹹大其汗蒸蒸 痕 下之也 公監 瀉 關 則是寒濕不化純陰 本 固 曰 水穀 者久而 汗熱穀 浮 於寒宜從 一紀日皇皇 如其 弱其 不别 不 雨 而 不止之謂 寒則為 寒治不 人 屬 多 濕熱 人 發 熱 之 陰 病 陽 偏 汗 陰 丽 故 也 盛 恭 亦 也 滲 和 11-復 惡 便 者 可 若 則 而 固 寒而 是也 一惡寒 為 後 溫之證也 也 多 頫 陽盛 者大 此 有 不 票 渴 四 雨 可下之 渡鴻 肢 陽 者 吧 但心下 胃中 手 此 九 轉 也 足 则 俗 属 熱 痞 也

明 盘 與 也 之 但以法 太 下當有闕文 有遺誤王三陽 小 陽病 但以 便數者 其不經費下 渴者之義 則裏氣 台 陽已轉屬陽明 嘶 法 救 创 浮 大便必鞭不更衣 一年日 之五字當是若 救之渴者宜五茶 相合此 也 和 緩 緣 而弱 邪 亦 熱自傳於裏病 何 云 條病 此處 也 中 而 有 風 勢不 心 五苓散 小 11-血底 散 下 便數者大便 也 便 + 廢 痞 不 急 日 心救之之文 葉惟 利 無所苦也渴欲飲水少 熱 人 證 汗出 用不然經文渴 方 此 不孤寒而渴者此 與上 心心 必 以 惡 皆下之 寒中風證 殊 文 鞭 覺 小 便 F 必 业

1

ししてす

1

ししい、中中リ

註集 張 與 化宜 兼善 十餘 議 陽而不治陽 之以滋其胃可 輒 為文 便而 下俟之可也 目十 五苓散以導 緩 下 無 in 潮 無或 批 H 關 誤 不更 浮 熱 明 下 耳 业 尺 讝 滿 如 何 或 其所停之 或 灰 其 語 可下之 或 nin 發 क्त 渴 痛之苦是仍屬區燥 恭 欲飲 小 不 ド 便 汗 痞 用 一證當 水矣蓋病 結 水必 攻 出 伐 利 惡 耶 寒純 是胃中 而渴 何 如 也日 是太陽中 者是 不實 胯 此 乾 非 Ti 又 燥 之鞭 雖

猫 金多野里 金 趙 卷 2

心心 漸 偏 慈 於 經 乃至 1]-便 不 則 大 惡 腸 寒 失 而 其 凋 潤 邪 भी 入 大 赐 明審 便 鞭與 矣 腸 然 中 明 準

是 汪 同 所 11-以 便 旬 數 日 大 便 不 更 鞭 仲 衣 景論 無 所 善 中 扣

仲景 須 用 藥 處 俟 其 陰 陽 自 和 何 則 以 無 11-治 便 法 漸 耶 大 此 正

出 机

明 病 此 申上 心下 則 家實 IE 條 햳 脫 滿 疩 गांग 而 者 死 鞭 心 其 下 不 不 鞭 可 更 攻 利 滿 汞 自 之 者 止 攻 目 不 之利 者 न्त्र 無 攻 那 所 遂 2 退 苦 不止 若 誤 則 攻 攻 猶 之 者 可 愈 變 其 死 和 业 地 止 利

北社

江州日十町田田

仙相

いまれ

見是

N

註集 胸 虚 琥 鞕 證 心下 虚 日 或 满 , 颟滿 與 問 結胸 4 夏 而 鴻心 痛 證 者 同 為胃 是 場之心下痞鞕客 心 中 F 鞭滿 實 故 可下 又 属 此 同 M 政 諡 何 云 不 痛 也 當 P

也

諸虚 者不一 存 者 故易 可 下之是為 下下之則大 愈岩 重虚 惡水 陰 渴 陽 求 津 消亡自然大渴其求 水者 氣 己絕則難 易愈 惡、 愈矣 水 省 劇 水 者陽

註集 程 F 者亡陰惡· 應 旄 助陰 좚 曰諸虛者陽津 甚 於慮 水首亡陽 定 प 記傷果 誤 下之亡陰矣 故 師註賜明 陰 液 有 冰 愈 有 劇之分親此 所で 故 下之 知仲 則大 求

陽 自愈 金多图四月五 下之後復發汗小便 註集 明病下血藏語者此為熱人血室但頭汗出者刺 註 而嶌之斌 治之 程知曰言下後復發汗有俟津液自回之法若强責其小 愈矣 也勿冶之言勿利其小便也須候津液回 大下之後復發其汗重亡津液小便當少 則膀胱之氣化不行有增鞕滿喘脹 胡 然汗出則愈 名 12 不利 **省亡津液效也勿治之得小便利** 明矣故宜以不治 以 而 小便 水 液内 期門 利 竭 必。

加人加傷实

りとは北流道正よ

卸慕醫宗定監 外 瀉 直 必 病 有 通 越 人 Z 11/11 傷 則亦 身 病 從 執 गींग 缺 汗 寒 傷 語 行 曰 出 蒸 至 盆 有 從 ML 寒 必。 明 胸 室 通 但 加 下 經 赐 To 外 身 LIGHT. 解 乳 頭 血 明 中 頭 也 y 矣 適 讝 裏 內 濈 汗 而 汗 堊 校 若 廉 期 然 出 散 語 至 盐 也 宜 門 血血 者 男 所 下 汗 而 則 出 亦 子 俠 註 有 不 巴 以 刺 解 皆 址 寫 臍 而 執 下 嫭 其熱 愈 見 熱 入 人 門 Mu. 亦當 Yill 也 熱 經 氣 太 入 血室 室 陽篇 來 街 M. 刺 熱 中 去 之 薔 也 室 .MI. 中 期 證 宜 加 室 若 陽 門 於 之 随 陽 頭 室 明 熱 刺 7 随 則 衇 明 期 甲甲 似 衇 起 加.

註集 明 鳴 病 氣 VIII. 目目 明 者 在 口 F 門 馮 室 屬胃開 雕 燥 脊 經 通 也 雖 合鱼 旄 加 燥 口中 熱 但 故 但 衝 目 迫 丽 欲 濈 入 頭 下 衇 100 血妄 不 陰 乾 竅 滅 血血 汗 所 力 燥 揭 於口 汗出 水 則 P 屬 分實在陰隨 出 者血 知 不 與 नित्रं 經 欲嚥者 心經經 渴 必 熱 陽 而 衇 在 下 空 致 明 解 有 奪 質 滅 例 虚 經 其實 流 室 此必 址 नित् 魏 熱 則 水 不在 故 無 得 之主室 This 乘 欲 画 A-D 府 稿 熱 虚 燥 啦 L 之 而 也 知 在 則樂 擾 被 血 不 但 血室嚴 热 欲 則 渴 而 擾 开 氣 滅 也 不 蒸 故 陽 和 在 水 也 心 明 不 神 刺

血灰 印息香於人然 浮 發 於府 從 表 此 沈 M. 從 承上 明宗 衞 熱 作解 得 燥 燥熱 口乾 也 熱。 但 解 解 而妄行 一條詳出 液 也 也然還表作解 也 「陽明病 在經也 水 鼻 邺 图 不欲感 燥 M 必由身 能食 国 गिग 血灰 若其人能 證以互 訂正值案論註陽明全質 解 口 者從樂 者則 燥 知 液 不 而出 邪 一發其 入血 剪 解 水 食 而 解 於 也 義也陽明 也今 則 稿 不 分 欲熙 爲 則 陽 旣 解 胃 明 能 於 之 和 食 樂 胃 病 邪鬱於經 衇 加刀 峽浮 汗 和 起於身故 出 ful. 則 則 丽 發 邪 解 當 未 知 熱 欲 還 口

心 明 雕 證其人喜忘者必有音血所 經 明 張 熱 也音 日血併 共併故 鞭 病 下之者以其人本有八於 錫 熱 大便 其人喜忘者本有人於之血 循 則 馬河 出租 加之 卿言病 陽 日此論陽 於下亂而喜忘喜忘者好忘前言往事也今 反 反易其色必黑者宜抵當楊下之 明 颲 尿雖 关 易 經 不 而色黑也不 脈 在 而上故口 明 胃府 經 脈 燥 非 便 乾 因能 W, L 熱 反 用 、然者本 鼻燥 也夫 易 血 桃 其色 枚 仁永氣 食 與熱上併 不 熱 HI 也 傷胃氣 有久 在 必 致 整 湯而 黑蓋以血 蚵 **瘀血故令**言 於心 也 衇 故能食 故 **嵊**浮 與

的為為民金监一多四亞集館 註集 鄭重 張 璐 加 **漆燥結則晦如媒** 張志聰曰太 明 自 主之乃確然不易之法 酌量 用抵當湯此條喜忘差 光日太陽熱結膀胱證 下故用桃仁 日大便色黑雖 Mi. 在 經 少血 鵬 胃故 陽音 陽明 承氣 · 験 其 此為 M 經 目厥 在 湯 明 大 膀 減於在 此 .int. 因勢而利導之發在 辨也 血. 便 胱 所以宜 云宜用則證有輕重 輕者如在重者發 ifij 之黑與不黑 故 燥結亦黑但 驗其小便之利與不 乃用發在之重 用抵當湯峻 瘀血 者血 在 攻 劑 則黏 如 何 狂 利 也

不解合熱則消穀善饑至六七日不大便者有瘀血宜抵當 人無表裹證發熱七八日雖 鹹不浮而數不解是表熱去裏熱未去也至六七日又不 寒七八日雖鳅浮數不可汗也若屎 黑乃有瘀血熱結之不大便也宜用抵當湯下之若鹹 旣 **峽數不解而下不止必協熱便膿血** 此 能消穀善機是胃和合熱非胃邪合熱故尿雖 便若不能消穀善饑是胃實熱也以大承氣湯下之今 承上修言畜血喜忘熱 人無表裏盜是無太陽表陽明裏證也但發熱而無惡 蜒浮数者可下之假令已下 蜒 結而無表裏證者當下之義也 也 鞕可下之假命已下

不解不大便轉而下利不止以有八班

註集 下引那 張 血 在 既多反 解 便膿血 胃乃熱結在 璐 也 日病 不大 n'nt. 則 不宜 身目為黃所以然 抵 内 與 至六七 雖七 當為至當 便 人 也 不 下血 所以 用 鞭 抵當湯 THE 而 以其表 w数数 日尚 日 下 所 示大 也若 果 利 治 發 梨 者以寒濕在裏不 證 便 之 解 之 止 觚 遊談下 尚 必有久 内外 **蜒**浮 且不 矣 倘 數 MI. 分 合 数 煩 解 %仍属 為是 邪而 兼 源的热腐 之 加 教羽不 太陽 下 利 見 太 知其 消穀善 陽表 解 隨 不 故也 止 經之 除 諡 化 必協 叉當 非 證 而 以 熱 熱 餞 因 便 熱 爲 隨 未

复世与金 **着四**

下也於寒濕中求之

傷寒發汗已身目為黃所 也 夫表寒裏濕鬱而發黃 自非熱濕內來藝而成黃者 以然者以表有寒裏有濕未解 此

故 不可下惟當於表寒裏 濕中求其治法宜發其表 寒利

其裏 濕門 也

註集 喻昌日傷寒發汗已執 寒濕再聚適 在軀殼之裏故爾發黃也裏者在內 邪 解矣 何由反蒸身目為黃所以

也於寒濕中求之求其寒濕中之治法 通 稱非謂寒濕深入在裏蓋身目正屬軀殼與藏 地

府

無關

應能曰其人素有濕邪在裏表寒雖經發汗而其為裏

三十八八人以及此人正大

印工でと写にくといいとは、日司指案論註場明 寒厥執在裏身必發黃麻黃連軺赤小豆湯主之 註集 傷寒表邪未解適遇其人陽明素有濕邪熱入東而 濕 濕熱蒸無外薄肌表身必發黃也若其 治之可也 熱非實熱 所持者終在 昌曰傷寒之邪得濕 便 小豆湯外發其表 利是裏之於熱未深表之鬱遏 大便觀則或清或下或利小便自可愈也今乃 也故不可下仍當於寒濕中賣其或沒或 裏而無稅解散也發汗後之寒與濕帶產 **为逐共濕也** 而不行 所以熱 猶甚故用麻黃連 **縣身中而** 人頭 有 發黃 深

和多里完合金 失 連 泥 Th 林 此 程 之亦熱未 陽傷寒 裏字豈 解 琥 瀾 軺 應 赤小 日麻 熱 散合雖發黃 旄 被 夫 陽 日凡 理宜 寒 黃連 冠 有 明 令 多治 傷 其 湯是其主 深 那 經 那 寒瘀熱在 一用麻 **越從** 在裏 人 邨 居 自 身目 ,猶宜 外· 韶 陽之東 黄 表 mi Mij 發黃 兼汗 也 一邊開 來 反 雕 湯 裏 治 若 国 派 者 在 其 即 解 挾 因 也 其 由 表 此 惠 刑 以 倘 丙 清 鬱滯而散除 濕 之 必 前 修 滋 瘀於經 燕 篇 理 陽 フケ The same 因 邪 是 也 丽 明了 所 來 氣 走儿 故 派 陽 在 軀 絡 一般之 表 身 於裏裏 經傳來 之中 水。 之時 熱 發黃 則

麻 印度管於位監 黄 麻黄 梓 濕 連 加口 也 取 上八味 去節兩 白皮之苦寒 三升 赤 惟其裏有 軺 下之表實者 兩 赤 小 小豆湯 豆薑聚 分 以 無表裏證 溫 連 赤 かり豆腐寒論註陽明 小豆 源 三服 軺 熱 水一手 以清 之甘 汗 ___ 方 所 以方 之皆 华 兩 熟盛 辛 目 解 升 無非 則 先 中 肌裏之瘀熱 以 煮麻黄 計 者 祛散 大 杏 用 為病 清 棗 麻 之小 擘十去四 黄 在 形态 二皮十 再 表 湯 去 沸 便 之寒濕復加 枚尖枚 也 丽 路也 去 不 去 上 利 生 桂 生 用麻 沐內 枝之辛 者 自 利 皮 連 邦召 熱

傷寒七 不全面是万人的 一个 能身黃濕熱之為病 解集 色 周楊俊曰此亦兩解表裏洪也故 治表質發黃之效也連軺 网对 開其表使黃從外 其樂衛也加連軺 八日身黃如橘子色小便不利腹微滿者苗庫蒿湯主 明如橘子色者謂黃色明也傷寒七八日身黃色明小 邪相合因而蒸鬱為黃 味傷寒發黃者必其人太陰素有 而散去桂枝 也濕盛於熱 梓皮以寫其熱赤小豆以利 即 也 連 熟 則黃色晦熱盛於濕 者 用 避 根 其熱也 濕熱更兼寒邪未散 外汗之藥 無梓皮以茵 佐薑東者 其濕共 必 蔯 則黃

便不利其版學演出意教物

印息管宗会意义於四豆傷 茵蔯蒿湯方 苗陳高六團 註唐不巖曰熏黃陰黃也橘子黃陽黃 便 腹滿自可除矣 之可下者猶必以除濕為主而不專取乎或下有如此者 程知曰此驅濕除熱法也傷寒七八日可下之時小便 無疑故以苗陳除濕梔子清熱用大黃以助其驅除此 利腹微滿可下之證兼以黃色鮮明則為三陽入裏之邪 佐以大黄使以梔子令濕熱從大小二一優寫出則身黃 不利其腹微滿此裏熱深也故以茵腹苦內治疽病者為 栀子叶 四枚 也

不多四月五金一年日 傷無身黃發熱梔子蘖皮湯主之 集 益傷寒身黃發熱者設有無汗之表宜用麻黃連軺赤小豆 林淵曰傷寒身黃胃有瘀熱須當下之此以發熱而熱未 實故宜梔子葉皮場解之 汗之可也若有成實之裏宜用茵蔯蒿湯下之亦可也今 湯清之也 外無可汗之表證內無可下之裏證故惟宜以梔子蘖皮 減黃從小便出也 升去洋分三服小便當利尿如皂莢汁狀色正赤一宿腹 右三珠以水一斗二升先煮茵陳滅六升內二味煮取三

祖 班 日身 萬 兼 敬 恭 者 乃 其 菌 中

梔 印象首於公監人民四皇軍 子櫱皮湯 魏 汪 此方之甘草當是茵蔯蒿必傳寫 (鬱以 十五枚 荔 之發熱也熱 號日身黃 三味以 即 在裏濕勝熱隊尤當加意也豈可疑以為裏證 彤 退其 曰此三條雖皆 水 黄則發熱自 四升 兼 、 民 魯而 發熱者乃**黃證中**之 煮 甘 草 取 發黃雖表而 外 炙 升 寒挾濕之邪脈而 愈 两 半去 洋 分溫 發熱 非純乎表證 毙 也 TII. 丽 非麻黄 服 成熱之證 兩 但當清 桂

赐 註集 明 秦智与白鱼 熱從外 病 喻昌曰陽 從 津 其熱邪 則 潛 乾 被 世 明 化必 100 熱 病 火 引飲水停為 越 (額上 一級 邪 170 無 矣 愈 愈 別 明 發 便 汗 元 黃宜 黄 發 沥 %截 陷 和 不以葛根 黄 清 津 可 濕停熱 則 汗 10 液上奔 從燥 **芮**陳蒿湯 液 免小便多熱 熱上蒸放 出 之變安能免 愈傷 ifij 鬱 化 湯發其汗 小 必煩渴宜白虎 mj 額 而 便 雕 不 汗 煩 額 深有 上機 從 徽 和了 與 者必發 下洩則 汗 小 Tri 以大劫 加勢必發黃 而 便 汗 出 愈 周身之汗 黄可免 不可 湯 周身 小便 取 汗 反 矣 然 熱 利 誤

·陽 年金光月六 公 监一人 於 四 言正信罪 明病 心中懊憹濕痰熱鬱於裏也故身必發黃宜麻黃連 小 程 便 慢者乃熱鬱也非濕厥也便輕 熱不得越故宜分經論治 豆湯外發內利可也若經汗吐下後或小便 明病無汗以熱無從外越 有執 軟者宜梔子豉 無汗小便 **知日太陽發黃由寒鬱濕濕不** 曰無 地 汗小便 不利心中懊憹者身必發黄 湯涌 不利則濕停 之可也 地 小便不利濕不能下泄 者宜 懊憹濕停熱鬱 得解陽明發黃 調胃承氣湯 利 而 心中 邨

名を子医世上刀 發黃而必大便鞭矣 陽明経病 病 方有執曰合應也亦熱色也胃熱上行面應亦色攻則亡 不解必合發熱色黃岩其人裏燥 必蒸身為黄也 實 液故發熱色黃因小便 面合色赤不可攻之必發熱色黃 璐 郑曰言熱在陽明 1 也故雖不大便不可攻之若攻 **日外不得汗下不得溺而濕熱鬱於胸中不得泄勢** 盘 面合當色赤是熱 罗先 小馊不 P 之經 小人 を利 不可攻 不利 那猶 地 佛鬱在 也熱在 ル 型菜 之則怫鬱在經之邪 小便不利 便 利 則同燥 經尚未入裏 於經陽氣佛 地 化當不

詩湯主之 印象及写文人 於 四 記傷寒 而還小便不利 明病發熱汗出此為 陽明病 而成黄 在 程應旄曰熱阻於肌膚之間故發熱而小便為之不 發黃 也 表 利 小便不 也但 也改之則經中之熱未得表散必發熱色黃因小 地 發熱汗出者此為 地 利濕蓄膀胱也渴 頭汗出身無 **渴飲** 水漿者此為疾 熱越不能發黃 汗是陽 熱 越 小 也但 2 漿 便若 熱 熱不得 熱灼胃府 在裏身必發黃茵陳 利 頭汗出身無汗 大 便因 外 也 越 此 加上 鞭

名為世二万合金 於 通 言無 **瘀**酱 應施曰頭汗出 内而不得越故但上蒸於頭 以泄熱泄熱則黃散矣 邪交鬱不 濕脫之黃梔子除胃家之熱大黃 利 大小二 小便 汗而 国 在裏外薄 越散也 分口 便使 不 能宣池故倉而發黃 150 利 便 府氣過燥 身 肌膚故身 利者屬寒 濕熱從下 頭汗疾熱 無汪劑 無 頸而 必發黃也茵蔯蒿湯 故 發黃註皆見太 頭爲 解熱 तित्रं 飲 還 出 諸陽之首故也氣 推 也 足微陽熱之氣鬱結 15-水 **建塞之** 旅三 漿 除濕 便 瘀 陽篇中 熱 禾山 無 者屬 在裏 如 蔯

寒 註集 峽浮 此 便 子清 太陰 太陰 自利 足 鹹 浮 發黄 自 地 Mi 定監 旄 上大黄滌下通身之熱得泄又何黄之不散 轉屬陽明證也傷寒峽浮緩手足熱者 溫 緩 緩手足自溫者 非 日繁在 韓 1 3/5 陽 乃太陽峽也 不能發黃至七 屬陽明 七 太陽證是為聚在太陰也然太陰峽當 明 為病 八 日訂正傷寒論註明明全篇 日大 太陰也若小 削 本 是 便鞭者則是從燥 證太陰而 於胃家質胃家之實不特三 三陰受邪 八日大 為繫在太陰太陰者身當 便 亦能致 自 便 蜒太陽是 利 者則 能 其轉屬陽 化 為 此為陽 陽明病 邪 由太 從 天陽 则 陰 陽 世 也

不多學行合金 能發黄 陽之分 魏荔形目 之胃至於七八日 中本 手足自溫實是太陰轉 胃 三大 中 外 承 有 須 證 原 病 氣證嚴陰 便 燥氣也病雖成 無燥氣 以 This 經 地地の 自 小便 手 例 太 利 足 陽熱 心心小便 小便自多大便自 則 别之小便 祗 脈 溫是 州 浮 小小 爲 何 緩是衛 自 邪不 歸 承 属 於七八日 濕鬱鬪聚於裏 平不得 氣證何 利 नित्र 利濕蒸 者 來 表 胃 地 而其 非 乾 即太陰陽 ifii 華 而為 不歸之於 熱瘀而 在裏但入 棘 便 始 鞭 必有歸著 屬 丽 證 陽明病 赐 明推之 發 成 明之病哉 萬 郝 裏 黄以 鹹浮 所

之内 傷寒轉緊陽明 川金巻に会監 陽病吐之但 凡傷寒無論三陰三陽若轉緊陽明其人必有战減然微 在裏白虎 太陽病吐之表解者當不惡寒裏解者亦不 出之證 也 煩熱 寒不欲近衣者是惡熱也此山吐之後表 也 内 太陽病當惡寒今反不惡寒不欲近衣此為 始為轉屬陽明 者其人濈 一人民, 可, 可工傷果論註陽所全篇 梔 無汗煩熱熱在表大青龍證也有 證也吐下後 豉湯證 然微汗出 也有汗煩熱 心中懊慢無汗煩熱 也 地 大便已鞭熱 解裏不 惡熱今反 汗 順 熱 解 吐

以醫吐之過也一二日吐之者腹中僟口不能食三四日 名 註集 不喜糜粥欲 陽病當惡寒 なるというるの 饮食冷食之下當有五六日吐之者六字若無此 致逆亦誤吐之過也 竹葉石膏湯於益氣生津中清熱寧煩可也 邓月 類非未 之證 胃承 較 此 氣湯證也今因吐後內生 關上城 以吐 食 經 發熱今自汗出反不惡寒發熱關上城細 光 冷食朝食暮吐以醫吐之所致也此為 汗下之質與也已上之法皆不可施惟宜 Z 而傷胃中之液故內煩不欲近衣雖顯虚 細數而成虛熱脾胃兩傷者稍輕 順熱是為氣液已傷 雖 吐 数者

莊 太陽病 病 文一二日三四日之文 衇 解 也 句 广繁 曲淺 也五六日病 之弦 朝 陽 吐之者傷 和 食幕 不 詢 明 I 粥欲食冷食 其故 解 及深之謂 胃 人长, 四 記傷無論註 當 中 吐 已熱吐 胃未深 也 知 惡寒發熱 以醫 此皆醫 將 世 轉 與 故 朝 2 吐 和 細 首復傷 之過 助明全篇 世 今自汗出不思寒發熱 玩 吐之所致 腹 陰 食暮吐之文 中知 經 之則 細者胃氣虚數者胃氣熱證 正氣 也 一二日 津 饑 可 尚 已衰 知 液 政 不 水 必有五六日吐之 不喜康 病 能 P 相 治 食 在 聯 故 也 属 是表已 明約 且以 欲 四

不多是 註集 欲 程知日 食 故 湴 則 程 氣 小 康月 欲 敦 醧 也 非 應 遊也 雨 为合金 屬 欲 脾胃 着 門區 旄 關 此必非 也 PIE 陽明也吳茱萸湯主之得湯反別省屬上焦 顺 本太陽病醫吐之 曰賜明之氣 屬陽明 以 本來之病此 網 先 吳 數 2 中 來莫湯溫 矣 焦陽明 者以胃 下 為 行 一則表 主受納 4 之裏寒乃 小。 馬 遊 降 順 邪 更 上行為遊 逝 而止其 也今胃中 乘虛傳入陽明 勿誤治使 L 焦 太 以醫吐之 嘔 陽之 13. 寒 P 逆變 也 不 傷 能 所致 動胃 成 納 也 熱

病 註集 集皆二六金 氣虛 吳茱蓮氣味俱熱藥 病 也 病 **س**乃數也數為 同 不 熱 **w**數數 也上焦以 執 能消穀食 不 知 監 日食穀欲嘔 此 下 利 美长 衇 魚 但 之數乃外 有 膈 U 而 吧 熱則當 反吐者 訂正傷寒 熱而 客熱 言 之 胃寒 例治 也 病 不合 論註盟朝全篇 那 發 不 之宜葛 世 而反吐者 其 消 能消穀以胃中 客 故曰屬 汗 穀 胃 桃 故反劇也法 引食今食而 2 因使 中 數 本 根 虚心故 其 非 此以發汗今陽氣 陽明言與恶寒 力口 胃 华 陽氣微 中 虚 夏湯 當 反吐者 虚冷故吐 實熱 從太 膈氣 陽陽 地 阿阿 逝

不多看 明 虚攻其熱 註集 病 虚 Thi 集 胸 程 清胃之藥 熱 程 應 可 究 陽 知 其根 能 誤 能 旄 發 曰 於上 此言汙後 食 必城 消穀 汙 目 汗 攻 乎. 見 過 由 則 其熱 不 多令陽氣微 溉 數 左 inj 由 能 矣 吐 峽 12 必以別所 档 發 下 而 當責 汗 溫 反 吐 故 吐 以 其 食當責胃之陽 者 膈 氣微 裝 胃之虚心若 氣 然者胃中虛冷故 胃 H 虚客熱 為 然則陽氣之珍 虚 热 冷 衇 熱為 無 外。 因 虚 力 越 也陽受 客 則」 其 數 也 爲 热 加 虚 以 投 氣 也 為 其 血 何 膈

即 算沒有一次 金 監 《 会 四 宣正傷寒 註集 註 方有 林 故攻其熱必噦噦 可 陽 、證也若 所以 有 戒謹之意 汗 明 瀾 日陽明 胃中 執 此又言亦不可 病 然者客熱雖除 曰攻熱皆寒藥 不能食者為 談 攻 虚 冷 譜 之 不 語 能食 湖熱 即 熱 攻若攻 乾 中 者 不 寒削 噦 故 嘔 胃 論註場明全篇 亦虚 須 能食者可攻 知必歲胃中虚 作 也 矣然則 詳 其 有 冷故 别 熱 之 則寒其胃陽亦 安得以 未 也以 曲 可便 燥屎 其人本來 以不能食言 陽明 以 條 在內 不能 眺 戒 必 地 作 以不

金田 かつ 白金 熱 鹹浮浮則為 宜 中虚冷不能食者飲水則險 汪 喻 雖 此 昌曰表 琥曰若胃中虚冷 理中湯 **噦矣法當大溫** 必城即飲水亦城也 在陽明更可知矣 承 不攻其熱飲水則噦蓋以胃既虚冷復得 上條 熱裏寒法當先收其裏太陽經中 加口 不攻亦噦之義也 4 丁香吳茱萸溫 虚浮虚相博故令氣傷言胃氣虛竭也 此條 不能食飲水則水寒相轉氣並 比前條虚 而降之 者其人胃中虚冷不能 可 寒更甚故 世 水寒故險也 亦 用 四

印意為宗会监一兴山豆傷寒 則為號此為醫營責虛取實守空迫血峽浮鼻中燥者必如血 誤攻飲冷皆可致的固 今病呃逆之人與飲冷 逆者不知歲即乾嘔也以其有歲歲之聲故又名歲也 何 兒格兒之聲聲長時止 者此熱據樂分樂熱迫 則是胃虚與邪相搏 鹹滑則為歲者乃熱 取實責虚以自取其咎即若 論註賜朋全篇 水 血妄行必 矣今趺陽胃鹹浮而不大無力 者為實可治聲短不已者為虛 即不誤下飲冷亦今的也若既陽 氣擁鬱之的非胃氣虛竭之的醫 則氣 自勝下衝上 趺陽胃峽浮而鼻中 作動也世有以險 出口而作 爲

在李智与五金 光口

治

註方有執曰此又出跌陽 城而以城與甸言皆逼汗而不得

寫 汗之所致也咎過您也賣虛言求病於虛取實言反以 實而攻取之也血屬陰而為內守故曰守空迫血言切 虚

汗也

which with the tenton

摶則為腸鳴醫乃不知而反飲冷水今汗大出水得寒氣冷 口鹹浮大而醫反下之此守大逆浮則無血大則為寒寒氣

必相撙其人必的

命汗大出四字當是衍文 鹹浮大指六 飯皆浮大也六 飯皆浮大則非陽明按

之人與ア大阪不放之大郎北里日人

当

印章於哲院全院一、然可可是傷寒論註場明 註集程 **海則為腸鳴醫乃不知而** 前浮脈變而為無血之虚大脈變而為胃冷之遲虚寒 **呃逆也** 之大峽乃太陽不按之大峽也醫反下之此為大逆則 熱之證法應發汗若反下之此為大逆 冷與虚相搏於胃中故必的也的者氣信結有聲即今之 熱 知曰言邪氣在表妄下之變也寸口浮大 至於內空而 則爲腸鳴醫見鹹大 而作汗裏先虚寒又 無血 所謂大 得冷水 以 反與飲冷水其人得水寒之 為 者變為裏虛而有寒虛 有熱飲以冷水欲以水寒 與之相搏則) 既經妄 而無鞕滿藏 下則所謂

不全理上了合金 註集 寒噦 噦 成 沈 傷寒 程 削 必 矣 是 明宗日邪傳於胃冒氣 而腹 知 利之以降其 無已日城 爲 至 城而 世 目前部 咽噎 邪氣質視其二便 滿 多分下 不腹滿 塞 視其前後知何 一而腹 不利 而氣逆矣 氣前部 後人治以五茶後部 滿 者 氣上而 爲 何 1/2 TE 氣 部 莲 便 部 也 虚. 遏 不 不 不 兩氣相 後 下也視其前 果 利 利 利之則愈 、茱萸湯 利之則 部大便 博氣 證 世 愈 列後人治以承 也城而 遊上 後 也 有 不利者

即家營宗在監一於阿豆傷無論註陽的 夫實則譫語虛 註載元禮曰譫語屬陽鄭聲屬陰經 **譫語 뺡語者顛倒錯亂言出** 語言重複其聲微短正氣虛 無次其聲高朗邪氣實也虛 通氣不得 鄭重 以陽氣虛不精明也此譜 錫駒 頻煩語雖認而諄諄 證有虛有實實則能語陽明 日傷寒至歲非胃氣敗即胃中寒然亦有裏質不 下浅反上逆而為 則鄭聲鄭聲者重語也 無倫 則鄭聲 語鄭聲虛實之所以不 常對空獨 篇篇 不 也 **陇者當詳辨之** 已老年人週事則醉語 日質則譫語處 精 热 語如見鬼状 神衰乏不能自 甚上乘於心亂言 川鄭聲 鄭聲

便為難表虛裏實外則嚴 不多的与公公金 寒四五日峽沉而喘滿沉為在裏而反發其汗津液越出大 音不正而語言重複地 他 親疎妄言罵詈也虛則鄭聲 其所云亦鄭聲也 婁 張錫駒日實則譫語者陽明 不分處實一縣用黃連解毒 一者本不難辨但 全善日余用參者歸术等 證別之隨證 1 施治可也 陽盛裏質 語 者神氣虛而不能自主故聲 與陰盛格陽指能錯語類以 燥熱甚而神昏氣亂故不避 大小承氣等湯以治之平核 例治 語語得愈者 甚多 豈可

傷無四五日入裏之用也與浙下

即寒吟云全監 承氣湯主之若一 明病其人多汗以津液外 註集 喘滿 裏實也人則胃熱熾盛必 方有執曰越出謂枉道而 傷寒四五日入裏之時也脈沉而喘滿乃一一在裏之喘湯 氣證此以過汗傷津而 允當耳 略曰傷寒四五日正 反發其汗津液越 而反汗之必致燥結 一人 以 訂正復寒論註 陽明全常 服 人談話上 出 出 那 則表虚也汗 致大實大滿腹痛祗宜 胃中 嚴語矣蓋燥結嚴語頗似 熱傳裏之時况見鹹沉在裏 出 發嚴語也 也 燥大便必輕輕則讝語 ル 出胃如大便為難 1011 小 1].

看 山臟語者以有燥屎在胃中此為風也須下者過經乃可 下之若早語言必亂以表處異質故也下之愈宜大承氣湯 金 与 与 合 盤 註張璐曰多汗嚴語下證急 沈明宗曰此汗多胃燥非 病自汗出而讝語者以素有燥屎在胃中此為太陽風邪 此詳上 過服反傷津液也 中乾燥大便必顿久則讝 故 利 讝 不宜大下但當畧與小承氣湯和其胃氣嚴語自 語止慎不可更服 條以明其治也 利 120 陽 也 同實治也 語宜以小承氣湯上之若 矣以其人汗出旣多津液外 明病其人多汗以津液外出冒 耜

大田相に北を外を日丁山人を出りたの大はいり

即意為言於在監一人然可能傷寒離點全篇 註集 方有執 氣湯 不盡且虛其中熱乘虛 燥實語言更亂 出裏實讝語所以必待過經入府而後下之則愈宜大 之所傳也須當下之然必須太陽之邪已過陽明之經 日乃可下之下之早則 知 陽明之府乃可下之若下之早則裏熱未結不但 在胃此當屬風 此言臟語不當下 曰過經謂寧遲遲 也 風為 而上干於心語言必亂此表虛 早也 陽 非謂必待十三日後也 風 邪未 那 旣 陽邪人裏故藏語然須 解於表盡入於車 出汗矣而臟語則必 云明 姚

能食者但 1 註集 誰 明病語語有 按 實也宜大承氣湯 張 當道之不可下也 宜大承氣湯下之句應在 陽明病語語有潮熱反 失仲景願慮帳下慎下 用 骆 大承氣湯下之之義若 革更 曰此以能食不能食 分鱼 熱甚所致胃熱則能 爾宜大承氣湯 湖熱反不 メイオ VO! 下之若 能 食 之 不 F 消穀今反 辨燥結之微甚出剂熱體語皆 能食者知胃將和在大便鞭 能食者知胃中 但 必有燥屎五六枚之下始合當 **香胃中必有燥屎五六枚也若** 便鞭而 用大承氣湯下之殊 不能食此必熱傷胃 必 有 燥 屎

津流氣化不能下行娱乐进苏於胃之前宜

即等為學院企監一人於可是優異論語問所名 下利謔語者有燥屎也宜小承氣湯 熱邪不盛津液不致大傷大便雖鞕不久自行不必用藥 也此可決其有燥屎也宜以小承氣湯下之於此推之可 食也其下利之物又必稠粘臭穢知熱與宿食合而為之 下利裏虛譫語裏實若鹹滑大證兼裏急知其中必有宿 反傷其氣也 中津液氣化不能下行燥屎逆攻於胃之故宜大承氣湯 知燥屎不在大便鞭與不鞭而在裏之急與不急便之身 臣

直 1 視譫語喘滿 註集 其已成 必 證 結 則邪熱上乘 與 堅痛方為 條下利擔語為 胃 何由 派 中槽 3 鞕 This 緩 盘 致뺽 粕 以 於心所 · 攻之 有 為 燥 者賜 死 終 邪所 10 燥 語 屎 [20] 得 胃之 址 尿 P 利 不 以麓 燥 獲 得 出則燥屎為 de . 一留著於內其 屎 日或以 語要之此 也 也 條下利擔語者死 业 答 岩端語 治宜 自此 飽 1)> 1 To 徐 利矣 利 未 承 則胃家實與厥陰 氣湯 須以 成 陽 明府實 模 則 省或 燥 热 要 氣 此 屎 知譜語不 時 利 熱 以 D

机州

下来一直如此上直被北直顺着指了八江子 正无指数

即复為言於 方有執 陽爭於上 中 神 多若重發汗者亡其 死 利 陰 氣 於 不守乎心也已屬 陰也陽病見 心始 燥 病發汗過多 不守故無法可 1 下 傳入 日直 脫也故日亦死 利 利則陰爭 而死於直視也直視者精不注乎目 へいい 丁正傷寒論註陽明全篇 一陽明而 視精不樂於目也譫語神不主乎心也喘 陰 不 血反 陽嚴語峽短者死 於 生嚴語嚴語者目熱陽也 解又復重發其汗以致 為陰勝於陽故 惡候加之喘滿陽上脫也故曰 而皆主死 下胃中土 也 也陰陽爭奪於上 世 公死 也 若 脈自 和者 脈不 短為陰 氣 液 世 譜語 光 則

看 全をという 註集 未 病 喻 時發汗過多及傳陽明時重發其汗因有亡 汪 聞 例 琥 離其生死但 與熱 證 必 自 陽證見陰峽 昌曰方註以 也亡陽之 相背也病雖其 日嚴語者城當 日久 和 邪爽心 故 剑 不死 而兼陽明少陽方有議 1 之候 此 也 地無 從 血 爲 所 大質或洪滑為自 太 法 定 不 存 不 陽經脫 者陰氣耳故神魂不定而妄 死若讝語城短 可 耳 同 脈短 施 簡不 則陰陽不附 語故此言太陽 知太 爲 和自 陽經 邪 陽 熱盛 血 和 者言 而藏 無臟語之 和 則陰 經 JE. 得病 見 衇 語

下多了一個學問一日十一一一 医水子的杜太阳

液後自 卸纂醫宗公監 發汗多亡 陽識語者不 桜 湯麦 寒汗出惡寒故 語非熱甚內實之譫語不 也 若發汗過多大亡氣液而 汗過多亡陽語語 又承上條以出其治也譫語者屬 有潮熱惡熱 愈 解與柴胡桂 無發熱汗出惡 だり立正傷寒論註陽明 可溫 可下與柴胡桂 (便也 枝 無 湯和其榮衛以通津液後自愈 世 此 可下也裏有熱宜白虎加 可 便鞭滿痛故不可下以 發譜語者乃津枯致燥之譜 陽明汗出過 知 發 枝湯和其榮術 太陽汗出過多致膽 陽明熱質可下之證 致龍語者 多致語語 以通津 無身

通鼻乾 前後腫刺之小差外不解 但浮無餘盜者與麻黃湯若不 不多中与合金 明中風 續浮之浮字當是弦字始 其榮衛通其津液自可愈 麻黃湯 俱是浮字 不得汗嗜臥 浮大而 那 2 祗用柴胡叉 則上之浮旣宜 身 汗發 短 病過 氣腹 及 恐 與文義相屬則可與小柴胡湯 尿腹滿加歲者不 + 悉黃小便難有潮 都满脇下及心痛 也 升散非亡陽所宜故合 則譫語是也然舍少柴 用小柴胡湯下之浮又如 日脈續浮者與小柴 一熱時時處 人 被之氣 胡湯 桂枝 胡湯 何 脈 别 和

詌 鼻乾 胃敗 太陽 病 俟 法 中 衇 太陰證 也 無 風 陽明證 證地 病 浮 定監 方之 傳 陽 可 解 太陽 已成危 势 明 與小 陽 條皆是 所向乘 耳前後 證 小柴 也 明病 小 也 也 顺 脇下 便難 心太陽 胡湯 不 写記復興 太陽未罷 候 機 腫 得 如過 此 等陰 少陽 太 及 汗太 丽 不口 論註 施 陽 De 明 陽錯雜 使 陽證 治也 證也 **衇當浮** 陽明 痛 府 衇 陽明 加於 也 倉篇 證 也皆臥少陰證 血底 也潮熱陽明裏證 按 續 故 短 、民兼見訟 泛氣 緩今城 表裏混淆之證但 氣 弦 用 氣 衰 整 刑 不浮 表明 從少 法 不 待 並 档 弦浮大弦 陽 英少男 其 亦 业 HI 小差岩 凡仲 州 11 n fre 刘1 The state of the s 機 Service of the servic K | % 並 腹 المراد STATE OF THE PARTY. 向 外· HI.

不全事一人公金 註集 而花浮為陽北為 用 程 之使陽明之 To 應旄 一浮不大 白虎雖有潮 承 矢口 之證胃氣已 湯間以通 and the same 於胃而成實更加 氣 不如俟氣 此 曰此條證以 一一無餘 7 條全是表證未 邪從 一敗不可治 熱而無 D() 其人阴總 陰浮花 太陽 之自 部 不得 者 颟 m 则 回 是要得 解若 尿 滿譜語成泼 H. 相称胃氣生熱其陽則 汗 猶 解 邪 腹滿噦 Mi 機 可 字 已向· 沙斯 無 E 過十 汗 爲 引枝 出燥 甚等 太 士 耳 陽當 餘 故 邪 並 西勺 日病 渴 量 THI. M 削 、麻黄湯 證 證 勢 於 也 不滅 故 絶 胡 不 汗 H P 麻 म

即急及雪下企監一公可訂正傷寒論註陽明金篇 誰方有執曰浮為氣上行故曰陽北為血內損故曰陰胃中 前城浮而北浮為陽盛北為陰虚陽盛則發熱陰虚則汗出 趙 言陽亡津液絶也 沈明宗曰此辨陽明津竭之鹹也浮為邪氣强花為陰血 燔灼竭絕不止耳 張略曰此言脾約當下不下則浮濟轉為浮花津液竭 生熱者陰不足以和陽津液乾而成枯燥 下矣其陽則絕即陽絕於裏亡津液之互辭也 一良曰胃中陽熱亢甚脾無陰氣以和之孫陽無偶不至 相搏則胃氣生熱愈盛胃中津液立亡其陽則絕者 **沙莱尔** 也

在全国三人全金 註集 ప陽明病法多汗反無汗而小便利是寒氣內攻也至二三 不然不嘔手足不厥者頭 明病反無汗而小便利二三日嘔而欬手足厥者必苦頭 程知曰無汗小便利嘔 頭痛者標也欬逆手足厥者本也 遊 起無頭痛諸表證也此頭痛是二三日後嘔欬而厥所致 絕即亡津液之互詞也若見此脈當養津液不可便攻也 日嘔而欬寒邪上逆也手足厥者寒氣見於四支也氣上 陽邪盛 則欬而苦頭痛矣若不欬不嘔不厥則頭不痛此證之 ラス名 而陰血虛為浮花 12 不痛 然肢厥頭痛曷不謂太陽病蓋初 相搏胃氣生熱故曰其陽

非因頭痛致唯多而風也唯数二部太陽少勝但在

印写表文自己人心 監一一大山 訂正傷 寒論註寫明全篇 表證未解則屬 深也然小便利 必苦頭痛仍宜 、幣曰陽明無汗嘔 邪必順水道而出豈 也然頭苦頭 瀾 則 因頭痛致嘔欬而厥也嘔欬一證太陽少陽俱有之其 日須識 厥除有之但 解 陽明 一而欬自 小青龍主之若不嘔不欬不厥而 則那 太陽 無嘔 亦 有 **欢手足厥者得之柴衞俱傷而** 不在內而在外不在 病其寒熱往來者則謂之少 手足 與欬也 有逆攻與頂之理 與陰寒但厥者異矣此類 厥證胃主四 一肢中虚 下师 哉 氣寒所 一場病也 數 小 邪

名金属了一个金一名 駒 曰嘔欬手足 Phil 厥 頭痛皆由反無汗之故也 咽

不痛 明病但 風傳來故能食也傷寒挾寒邪則有頭痛證今中風 明病當惡熱不惡寒若從傷寒傳來則不能食今從中 頭眩不惡寒故能 食而欬其人咽必痛若不欬者 挾

嘔 m 咽痛則以風屬陽邪風病則兼火故欬而 咽 痛以

則有頭眩器理固然也寒邪屬陰若兼飲則欬而

類相從也

邪

咽 門胃之系也胃熱而氣逆攻咽則欬而咽傷 也

相外日曜五一有故事日本一便利此五十年本本

即金路門公監一於四訂正傷寒論註陽明全篇 寒上攻能命欬其欬兼嘔故不能食而手足厥熱上攻亦 胃府之門也夫 證中風則有頭眩證以不惡寒而能食知其鬱熱在裏也 程應旄曰陽明以下行為順並則上行故中寒則有頭痛 風寒八胃之辨也 程知日陰邪下行故無汗而小便利陽邪上行故不惡寒 而頭眩寒則嘔不能食風則能食寒則頭痛風則咽痛是 咽不痛况更有頭眩 咽痛惟 而咽痛 不惡寒之證益可辨其為陽明之 少陰有之今以欬傷致痛若不欬 以胃氣上通於肺 E 咽為

發汗後水藥不得入口為逆若更發汗必吐下不止 不多 一方面一名口 有寒復發汗胃中冷必吐蚘 此承上條誤而又誤必變而成遊也胃中虚冷本因誤汗 必吐下不止之下字當是衍文 烏梅九可也 程應施口汗生於穀精胃中陽氣所釀也有寒復發汗知 胃陽不復存於內矣蚘 陽氣愈微胃中冷甚此不能安故必吐此也宜理中湯送 水藥不得入口入口即吐而為並也若更發其汗則胃遊 八有寒謂胃中寒也復發汗謂汗而復汗也胃寒復汗 何能安

い葉人口方出且必無時而不此

卸金路門公監一段可言正傷寒論註陽明全篇 註 成無已曰汗後水藥不得入口為之吐並發汗亡陽冒 註汪號日陽明經病脈當從長今脈但浮此在表之熱凝也 陽明病鹹浮而遲浮主表熱遲主裏寒今其證下利清穀 虚冷也若更發汗則愈損陽氣胃氣大虛故吐不止 則為果寒太甚法當溫之宜四強湯主之 也 程應旄目發汗後見此者由未汗之先其人已是中虚 盆甚不能司納不特水藥人口方吐且必無時而不吐並 誤不堪再誤也 大学

陽明病欲解時從申至戌上 不多學方名鱼 光以 色音原趺音夫博音鳳朵音豕摸青莫念音轟熊莊膽 音切 上乃陽明主氣之時表裏之邪欲出必隨旺時而解 張志聰曰經云日西而陽氣衰陽明之所主也從由至戊 凡陽明病無論在經在府必乘其旺時而解申酉成陽明 旺時也經氣旺則邪氣自退故解 穀其所利之穀食色不變氣不臭即完熟不化也此裏寒 腑病脈當從數今脈過遲此在裏之寒甚也故見下利清 已極故與四並湯也 也

對於湖角直出出版即开放電

竹をとするとは一大大日打正傷寒論註陽所全篇 **達音伯孫即到佛音帯尿同湖轉林戀街音噎此音回上聲德音優貴古對休劫律直音且腹陋牙放音瘦取時**

位务医污金组一先口 他 金州岛田山下 企 强 光 工 とくる

印表管氏企監、各互目錄		柴胡加芒消漫	大柴胡湯	黄連湯	柴胡桂技乾薑湯	柴胡桂枝湯	小柴胡湯	訂正仲景全書傷寒論註少陽全篇目錄	御纂醫宗金鑑卷五

是面 黄金属西西尔金 題 老 五 高計が観な器は経 17

而 等為二六公 監 公子 御 辨 言丁 纂醫宗金鑑卷五 小 正 加 之 頭 加 减 拒 太 半 陽 "易 桂 仲 陰也 主 景全書 施治 病 枝 此 -表 春 往 以 半 際汗吐下三法 衇 裏也 來 取 然 那 其 證 汗 寒 氣 小。 入 傷 并 熱者 其間 治全 寒論 及 柴 半 半 1 胡 表 出 後 訂正傷寒論許少陽 用 加 陰 者 地 篇 註 胸 俱 柴 减 陽 謂 外 脇 法 在 胡 相 在 半 桂 滿 中 所 移 外一 在 寒熱交 禁 枝 微 叉 之 地中人身 故立 結 太 乾 有 薑湯 口不 陽 小 作 也 便 小 柴 渴 华 不 邓 之 之又 身 胡 裏者 利 氣 JE. 渴 有 湯 相 亦 有 持 謂 微 Th 和 如 熱 進 解 在 之 法 胡 嘔 被 退 内

小 行為医 陽 之爲 鬱 病 消 主 證 以 湯 微 施 之及柴胡 具而反下之心下滿 **完全第** 病口苦 治不 藥下之微 下之等法 煩 者為未 可 咽乾 執 證 是 利 解 仍 仲景亦 也與 在者 目眩 也 胸 脇 大柴 先與 也 滿 而 有汗下 而 鞕 胡湯 痛 嘔 小 柴胡 日晡 者 之法惟在臨 下之更有 此爲結胸 湯嘔 潮 熱 者 不止心下急 本柴胡 也大 小 證 柴 陷胸 詳察因 胡 證 加 醫 湯 这

提中風傷寒亦傳少陽之總剛凡篇中稱少場中國傷寒

少陽

者膽

經也其脈

起

於目

銳皆從耳後入

耳

中

挾

咽

出

頤

額

中

邓

傷其經

故口苦咽

乾

目眩也口苦

者熱蒸膽

溢

也

咽

乾

者

熱耗其

津液

也

目眩

者熱薰

眼發黑

也此

揭 中 風 傷 寒那 傳 少 陽之 總 桐 凡篇 中 稱少 陽 中 風 傷

者 卽 具 此 證 之 謂 也

註集 林

也 胸 大 脇 瀾 抵 痞 日論中言 病 鞕 於 半 經 表 絡 半 少 裏之 者 陽 此篇 病 證 胸 諸 詳 脇 條 矣 痛 已悉之矣若膽熱 此 耳 何 聾 以日口 往 來 寒熱 苦 四因 心 府 乾 煩 自 目 喜 其玄 嶇

則 沈 明宗日此 又 必 有 此 雖 證 少 也 陽總

證

然偏裏矣少陽

主

膽

共

衇

循

脇

絡

於

耳

故

眩 2 裏 證 胸 乃 脇 括 痛 少 伽 陽 耳 龏 風 傷 仲 衞 景 寒 另 傷 出 樂 手 眼以 風 寒 兩傷 補 m 叫母

卸纂器宗位監 馬句 曰 小小 是是 陽 訂正傷寒論紅 世 少 一少陽全篇 之 相 火主之 從 化

央

不多原理与五金

盛則 乾故口苦咽乾也少 陽屬木木主肝肝主目故病

則目眩也

魏荔形曰膽府與少陽經為 表裏而非半表半裏之謂

在半表半裏之間總以經絡 表者對太陽之全表言半裏 之界為言又日經中所謂不 者對太陰之全裏言故少陽

悉具者指或中餘證而少 陽經膽府之主病未有不

必

具而遠可指為少陽病成者

陽中風兩耳無所聞目赤胸中滿而煩者不可吐下吐下則

悸而驚

陽卽首係口苦咽乾目眩之謂也中風謂此少陽病是

從中風之邪傳來也少陽之蘇起目銳皆從耳後入耳

是多了一 註集 中 從 其 程 陰 满 中 琥 神 具 知 之 於 日 心能 志 者 吐 目 風 何 而 那 少 小 虚 會 驚 心 則 煩 之 誤 陽 也 那 傷 陽 怯 陷 缺 然此 有吐 胸 氣 惟 则 盆 傳來也少 からし 吐 岁 滿 且 氣 悸 下 下之 胸 下 虚 和 Th 而 乃 訂正傷寒論註少陽全篇 則 者 解 驚 煩 少 中 禁 若吐 陽 也 陽 循 津 悸 者 此 华 脇 之飯 10 祗 此 液 則 因 之 揭 故 表 表 則 中 邓 煩 不 半 起目銳皆 耗 丛 傳其經 裏之胸 風 神 血 滿 虚 可 故 其 那傳少陽之 北 血 志 下 誤 陽 虚 虚 若 滿 行 而 政 從 驚 吐 故 吐 悸 而 目 耶 後 赤 E 悸 煩 下 大 入 而 则 非 耳 則 虚 綱 太 耳 薛 也 中 胸

傷寒 此 希 《多医巴方子母》 一是一 血底 解 脇 者補言 悸之證想可無事他求也汗吐下三法 吐之徒 日少陽 荔 明宗 弦 一小柴胡 邪傳來 形月 和 細 頭 · 回 胸 則愈胃不 之 此 痛 傷 也 傷 ,中煩滿 為少陽 發熱 寒而 係論仲景不出方 胸 也 頭 中之氣使 痛 衇 省 和 弦 發 對證之藥 傷寒界言之也謂 屬 似 則 熱無汗傷寒之 細少陽之脈也上 平可吐 少陽 煩 那 而 內併 悸 小小 小柴胡 但 陽 斯用之室决 MI 逼 在 可發 迫 少陽其邪 證 神 條 旣 也 條不言飯 此 計画 中 明則 少 灭 汗 有 可 陽病 發 兼 巴 心 悸 行 見 則當 下胸 而 則 煩 是 口 此 心 從 苦 循 和 傷 血底

朝目

地少陽

之證故

日屬少陽地益少陽之病

已歷

問奏者云白蓝 註集 故 乾 此 可 發 喻 風 者 愈 讝 揭 不 目 昌 嚴 傷 日 也 堂 語 眩 否 可 少 益 以 寒 可 日 則 則 發 少 傷 津 陽 是 其 汗 陽 更 乾 之 寒 轉 を元 傷 傳 若 脈 頭 熱結 證故 2 少 不 寒 弦 痛 屬胃矣若 發 禁發汗 待言 陽 發熱 頭痛 細 汗 之 打正傷寒論註少陽 故 胃 則 日 大 矣 俱 益傷其津 屬 發 知 不 其人津 熱安 少 少陽 傷風 為 綱 能 邪 和 陽 在 入少 也 中 表 於 不 也葢少陽之病 陽之界 胸 發 風 惟 但 液 而 助其熱 禁吐下一 滿 汗 讝 素 此 語且 者尚 頭痛 充 क्त 胃能 也 煩 更 必 發 似 熱 自 可 煩 發 巴 可 讖 互舉 爲 屬 而 和 悸 則 則 华 陽 或 旣

省金屬西門白鱼一名一 嘔 便不利或 或胸 寒五六日中風 熱而使之和 胃熱上犯於心故藏神不自等也 少陽之邪已 王琥 尚不可吐下則傷寒之不可吐下更不待言矣脈弦 液外出安得 邓 中煩而不嘔或渴或腹中痛或脇下落 欲 人裹其在胃之津液已為熱耗重復發汗而驅其津 曰談發其汗讝語者奪其津液而胃乾故言亂也此 不渴身 轉屬胃胃和則愈者言當用藥以下胃中之 往來寒熱胸脇苦滿默默不欲飲食心煩喜 平也胃不和不但嚴語更加煩擾必悸此言 不能語乎 有微熱或然者小柴胡湯主之 **鞕或心下悸** 細者

一此承上三條互詳其證以明其治也傷寒中風三四日見

即意為三六全點 註 常 胸 可 風 此 頭 來寒熱 苦咽 脇 還 故 痛 承 苦滿 一聲目 解 太陽之表中處於牛 寒兼見俱有之證也少陽之邪進可傳太陰之裏 發熱無汗者 上三條 來寒熱不 則 乾 也少陽 赤胸 作 用刻 一家元 目眩之盜與弦細之鹹知 寒內并於 脇 互詳其證以明其治也傷寒中風 苦滿 滿 定也少 邪 則 而 近 訂正傷寒論計 默默 知 煩 裏半 是從 乎 者 陽 陰 表 不 則 小小陽金篇 裹 华裏之間其 故 知是從 欲 傷寒傳來也今五六日 默 鯳 不 飲 默 下 和 食心煩喜嘔 則 胸 也 中 邪已傳少陽矣若兼 循 作 風傳來也若兼 师 熱或表或 陽 邓 脇 外一 邓 并於表半 凑 邓 則 三四四 知 是 更

名金の田口の一名子

柴胡應有之證也其餘諸證 也 土故不欲飲食也邪在 邪欲入裏裏氣外拒故 胸 嘔 脇 時或有之總室以小柴胡湯 火無從泄上逼於心故心煩 嘔 則木氣舒故喜之也此皆

安嚴及傳陽明少陽則無皆衛之分且其邪皆化熱故 主之各隨見證以加城治之可耳然既分中風傷寒之傳 而不分其治者何也益以太陽有管衛之分故風寒之

歸一致也

零售家

註成無己目邪在表裏之間謂之半表半裏傷寒中風者是 或傷寒或中風非傷寒再中風中風復傷寒也五六日邪 自表傳裏之時邪在表則寒在裏則熱今在半表半

間未有定處故往來寒熱也邪

在表心腹不滿羽在裏目

中華學可以公益 心 吟 自 間 表 也 方傳裏也 欲食者 表 不安 腹 赤有 有執 貝刂 之裏在 脹 定 滿今言胸 外 日 邪 煩 在裏 未至於必 不嘔 五 處 兩 邓 一号丘 界 表裏之間 故 六 初 日大 入裏 則 往 邓 隙地 內 來 在 脇 約 裏則 寒熱 苦 未 不 煩 訂正傷寒論是少陽全篇 能食 有定 也 所 言 經 滿 也 那 也 云 謂 煩 亦 陽人 往來 處 故亦 是在表裏之間 滿 丰 在 那 表半 所 ाति 表 在表心腹 寒熱 傳 叫鼠 爲 之 則 之 陰則 静 能 不 煩 在 食 者 表裏之間 而 書 不滿 邪入 故 别 有或見之證 嘔 在 默 陽 也 裹 所 驅 邓 默 邪 主 殻之裏 邓在 也 不能 由 在 在 邓 表 邓 岬 則

征 雾唇片, 五金一是一 小 柴胡湯方 半 作胡 华 觔 寒熱閒 陽 來寒熱交互爲交者發明 位 明 也故 明去太陽遠矣風寒無異治經以傷寒中風 切近太陽營衛之道在 七味以水一斗二升煮取六升去滓再煎取三升 升 作也太陽 入而併於陰則寒出而併 黃芩三兩 甘草. 炙三兩 經 有營衞之不同所以 邇風寒之辨尚嚴少陽一 風寒至此同歸於一致 人参三兩 生薑三兩 於陽則熱出 風寒異治陽 人無常故 五六日往 也 經 越

升日二朋

加 减 法

渴 胸中 去 半 煩 夏加人參 而不嘔去半 合 前 夏 人多加 成 四 网 华 括 遊質一 括 葉根 枚 四 网

若

腹中痛

档

去黄芩加

芍藥

兩

心下 脇 下 痞 悸 鞕 小 去大 便 不 利 棗 者 加 去黄芩 壮 蠣 四 加 兩 茯 苓四 网

渴 外 有 微 熱者 去 人參 加口 桂 枝三 团可 溫 服微 汧 愈

養養民念 監一安丘 傳太 欬 者 陽 去 陽 參大 明 自 棗 汗 訂至 傷寒論註少陽全篇 生 薑 吐 加 日 下 亚 立味子牛 那 傳 少 陽 升 乾薑一 惟宏 和 解 兩 汙 吐

到

解方

邓

不多医早年,全全一天了 裏之太陰正氣一虛在經之少陽邪氣乘之故以薑棗 處無過病者喜其藥味平和殊不知因循誤人實為不淺 參和中而預出裏氣使裏不受邪而和還表以作解 界在半表者是客邪為 之短及陰陽疑似之辨總以小柴胡為套劑醫家幸其 俗不審那之所據果在半表半裏之問與所以應否和 胡 下三法皆在所禁以其邪在半表半裏而角於軀殼之內 故凡治病者當識其未然圖機於早也 解少陽在經之表寒黃本解少陽在府之裏熱循恐 在兩界之間各無進退而相特故立和解一 病也在半裏者是主氣受病也邪 法旣以柴 也世

算程應施目方以小柴胡名者取配平少陽之義也至 於

解集 程應施 盡之矣方中以 補 火 通 也 氣 達曾衛 燥已 内 使半裏之 之旨及加減 散入 門配 虚 者 からいと 土 火 助 目 氣燥實逼 方以小 中 液 生 鞕 相 發之氣 邪 胃陽 須 者 逼 相濟 柴 肺 得 法 邓 柴胡 從 則 胡 也 受 旣 所云 内 疏 甘 胸 使 訂正 故 困 草佐 邓 傷寒論計少陽 去 也 徹 木 名 則 故 上焦 者 去黄 半夏 使 故 不 华 木 柴芩調 取 半 氣 去 夏 至 內向 害谷 配 實故 表 得 、芩以安土 加 人 痰飲降 之邪得 參半 乎少陽之義也至於 通 栝隻 和內 而 去大 夏 外 根 一加芍藥 從 寨 也 加中 角华 外 裏 也至若 氣之遊 下胃氣 腹中 外宣 薑 之甘 栝 葉質 棗 佐參 黄 痛 以 戢 煩 也 者 团 偷 和 制

伯纂監与金銀 卷田

寒尚滯 黃芩之苦寒加茯苓之淡滲也不渴身有 生 蠣之 南咸 於肌故去人參 而與也心下悸小便不利者水邪侵乎心故去 加 柱枝以解之也然者牛表之寒 微熱者牛

肺寒不減黄芩恐乾 凑 於 用市 故去參棗 加五味子易生薑為乾薑以溫之雖 薑 肋 熱也總之邪在少陽是半

熱鬱而不升故以小柴胡治之所謂升降浮 沉 則 加頁

之也

寒中風 盐 此承上而言無論傷寒中 有柴胡證但 見一證便是不必悉具 風 邪傳少陽病

證 但見 證便以 小柴胡隨器加減 治之不 必待

在

华表华裏

来心具也

胡

悉具也

註集 寒 鄭 方 之 杂 重 有 有 是 光 因 執 柴胡 柴 證 Ħ 目 有 者 胡 此 爲 柴 刨 證 承 是 相显 此 胡 上 材後 半 外 證 條 之 表 兼 到车 但 劑 华 見 見 認少 胸 裏 風 寒 證 脇 故 陽 不。 满 日 便 旭 是 經 全 鞕 在 為病之大 而 八山 不必 表 順喜 發 未全入 熱 悉具者言 者 門配 小 及 旨 裏 諸 柴 往 胡 證

為詳辨者也

與

也

及

但

欲

阳显

胸

中

捅

微

溏

者

亦

非

柴

胡

認

此

等

又

當

細

證

不

PJ

不

審

者

如

朋

下

满

痛

本

渴

而

飲

水

哪

者

柴

胡

中

可

故

證

不

业。

悉

具

而

方

有

加

减

法

世

至若

柴

胡

有

苑

似

湯

中

亦

真沒可言

訂正傷寒論註少陽全篇

ML.

湯主之 傷寒四 伯 傷寒三日少 註傷寒該中 註集 第四三分倒 程應旌 傷 太陽陽明證也脇下滿 張 盛 五日身 寒四五日 錫 欲 陽 傳今脈 駒日三日 合病 陽脈小者 目 熱惡風 光子 觚小 風 之 邪 11. 而言也其邪三日少陽受之脈若大者為 始 乃少陽, 爲 在三陽之時身熱惡風太陽 則 固當權 一欲已也 邪衰欲 陽得陰以和是邪盡退而 頸 項强脇下滿手足溫而渴者 其轨 手足溫 主氣之期 自巴 緩 也 執急以施 而渴陽明少陽器 脈小則 病 其治然其 正來復 證也 退 也 小 也 頸 柴 矣 此 項 邪 强 胡

下滿手足溫而渴是已露去去入裏歸供少陽之機

卸泉路完公監 註集 方有 罷 陽 從 瑜 善備 陽明之邪 合病 昌日本當從三陽合 渴 少陽以爲治也主以小柴胡湯者和解其表 滿 是外 陰津 增其熱而 執 手足溫 旦三陽 也 不必悉具柴胡證 一段五 邪 逼凑於少陽 傷 徽 而渴是已露去表入裏歸併少陽之機 少陽近 俱見病 大 舉而 耗其津矣故 訂正傷寒論註企陽全篇 併病之例 兩 裏而裏證見故從少陽一 而 向裏之機已著更用 獨從少陽 而當用柴胡之一法 也 小柴 從 小 而 柴胡之 胡湯當從 用表法但 小柴筋以為治 1111 和法 手 辛 也 惠 使陽 足溫 减 於 甘 也 發 孙山 者 故 邪 散 而 丽

陽明病發潮熱大便溏小便自可胸肠滿不去者 不多理与公生一人名一 强着 之 者 寒已至四五日之時不 況兼手足溫而又渴此為邪將傳裏之機已 汪號曰此條係 張 邪漸衰也其兼陽明證 志聰曰手足 而渴 按之而得也 此陽明之邪亦將哀 者 去华夏加 溫 三陽經濟病 不 者手足 然何以既 大便勢小便數也今六便溏小便 栝蔞根為是 国 也惟脇 不冷也非病 不曰鼻乾不得趴 發熱惡風祗日身熱者 而少陽之邪居 日身熱而復 下淌為少陽經之專 人自覺其溫乃診 云手足溫 著也 而 多 與小柴初湯 他太陽 派氏 此太 目 即 頸 傷 陽

非陽明入府之潮熱可知矣沒有胸脇滿不去之少陽

明病

發潮熱當

加常

印を考えている一部の人名こよ 病 有 王肯堂曰陽 乎 非 程 陽 應旄 陽明外 明病 熱 津 故 必 陽明入府之潮 肠 也 液 1 大 不從陽明治 再以胸 曰如得 得下 颠滿 便 證身 鞭 胃氣 便脇 而 明 热 大 脇 小 陽 為 徴之 明病 汗 便 病 便數今大便溏小便自 而 熱 因 下 **訂正傷寒論註少傷全篇** 華更 門家實也今便 從少陽與小柴胡湯主之也 和 帅 可 則主以 减 呃 知矣况有胸脇滿不去之少陽證 而 不惡寒反惡熱也 舌 Thi 發 上 嘔是陽明傳少 潮熱似乎胃實之徵矣 一自胎 小柴胡湯 出 省 溏 rfn 可與 解 而言陽明病 無 可是熱非 小柴胡 疑 陽病也若 矣 湯 府

位為医門分里

俾上焦得通則嘔 今舌上白胎滑者是己傳少陽故可與小柴胡湯 黃胎禮者為陽 明之熱未盡則當與大柴胡湯 可止津液得下則便可通胃氣因和 和 兩 解 解 而

滿除則身必濺 然 汙出而解矣

註集程 胃未實卽使不大 知曰此言陽明 便而嘔亦為邪未入裏鞕滿在 兼少陽空用小柴胡也不但大便塘為 用新 而不

在 解 腹 陰陽則上下通和濈然汙出而表裏之邪爲之一檢矣 舌胎白而不 黃皆少陽之見證多故常從小柴胡分

11 應族目脇下鞭 柴胡湯者以舌 上白 胎循帶表寒故也若胎不 滑雨灣

滿

不大便而嘔是六柴前湯證也其辯

則所謂舌上乾燥而煩欲飲水數升謂裏熱已耗

的《香写名监 而 無方有執曰蒸蒸而 振 柴胡湯病 此 昭 却 發熱汗出而 湯 上見此條陽明 舌胎與嘔言胃 蒸而熱振振而 所謂舌上乾燥 者可復與柴 胡湯病證不 不可主矣又曰上焦得通照脇下轉滿言津 證而下之若柴胡證 1000 角罕 寒邪 病 胡湯 而煩欲 振作 與柴胡湯而反下之不變他病柴 氣 從不 訂正傷寒論註少陽全篇 因 戦 和 正交爭然後汙 則 汗也必 解平 照不大便言上條陽明病 大便上見 飲水數升謂裏熱已耗及洋液 不能者復與柴胡湯必蒸蒸 但以誤下其證处虛故 如 北 而後解於 而 解 者以 也 液 解 得 胡 從 後 證 淖朋

爷写图写分戲 得病六七日鹹遲浮弱 裏虛故也 程 知曰邪氣還表故蒸蒸而熱下後正虚故振振而 2 先 王 惡風寒手足溫醫一三下之不能食而 動

木渴而飲水嘔者柴胡湯不中與也食穀者贱 脇 按 下滿痛 食穀者贼四字術 面目及身黃 交食穀嘔者有之從無歲 頸項强小便難者與柴胡湯後必 者

重

說得病六七日少陽八太陰之時也脈遲太陰脈也浮弱大 | 郵也惡風寒太陽證也手足溫太陰證也醫不以 柴胡

桂

枝湯解而和之反二三下之表裏兩失矣今不能食

用筋

下滿痛雖似少陽

会には、近頁質は川易用と下来と地方更維治散

之證而實非少陽也而目及身發黃太

印美美丁艺会出 註集 程 程應能 柴胡湯則後必下重是使邪更進於太陰也雖有渴證 病者更以有少陽脇下滿痛之一證不必悉具而又誤與 係數下奪津之渴其飲水卽嘔 陰之證已具也頸項强則陽明之邪未已也小便難者 下所致效柴胡湯不中與也 奪津之候也此皆由醫之誤下以致表裏雜糅陰陽 知日前言柴胡證但見一 不宏柴胡者以為戒也 數下自能消水今本渴 日以一渴證辨之前條 文元 訂正傷寒論註少陽全篇 證 而飲水則嘔知其渴為膈 便是此更言脇下滿痛 亦非少陽本證之曜縣誤 之手足溫而渴者熱在裏 能 燥 同 功的

傷寒六七日發熱微惡寒支節煩疼微嘔心下支結外證未去 伯屬醫与白銀ノ光子 者柴胡桂枝湯主之 計傷寒六七日發熱微惡寒支節順疼微嘔心下支結者是 柴胡證不罷者復與柴胡湯乎 津人之渴數下中虚不能消水究於胃陽無涉然則柴胡 取柴胡之半以散少陽嘔結之病而不名桂枝柴胡湯者 太陽之邪傳少陽也故取桂枝之半以散太陽素盡之邪 湯之於少陽豈可云但見一證便是乎又豈可云下之而 以太陽外證雖未去而病機已見於少陽裏也故以柴胡 冠桂枝之上意在解少陽為主而故太陽為兼也支者側

して出台川はいりついちも

柴 i 食皆 註集 胡 方有執 也 程 桂 则 煩 小也支結者卽心下側之小結也 枝湯 疼太陽證也乃 至微 此不易之法 此 於心下之偏旁而不 太陽證亦 矢口 者 目 公能 人名三 此 惟當以柴胡湯 吧 日支節四支骨節也支給言支飲搏 羽 大陽之表 入少陽 稍減矣嘔 也 惡寒而微 訂正傷寒論註少陽全篇 也故目外恐未去 而太陽證 結於 而支結 和 角军 兩 但 未去者也發熱惡寒支飾 支 少 陽 脇之間則少陽亦尚淺越 陽證也乃 而 節 加以桂枝 煩痛而不 临 聚而結也發 爬 湯發散 頭頂 逆 闭 强 微 租 癌

伯名を門与白金一名子 柴胡四 **芍爽一兩半** 解集 壞病 右 柯 2 可 半表故於六經病外獨有桂枝 琴目仲景書中最重柴桂二方以桂枝解太陽肌表 任重不拘於經也如陽浮陰弱條是仲景自為桂枝證 以調諸經之肌表小柴胡解少 九味以水七升煮取三升去滓溫服一升 釋血弱 兩 兩 柴 胡亦 氣盡係是仲景自為柴胡怒之註釋桂枝 有壞病桂枝有疑 半夏二合半 大棗等枚 枝 兩 半 似證柴胡亦有疑似 黄芩 生 四月 證柴胡證之稱見二方 华表亦可以和三陽 兩 丽 兩 半 华 證

·ELZ

小路 年 电向中

· 一声更皆及病以此 明 證本湯

りまるとうことといいしていたしし 裏證表裏不 寒熱當退之時 於 飲 可知支節 裏故方以柴 别了 謂之支結是表 水 桂枝證脚擊急與胸 微結之證日 雖未 取 嘔與 桂枝之半以 解 煩疼則一 但欲 解法當表裏雙 而 胡冠 反 正 見 已虚 不 吧 發熱惡寒諸表證更見心下支結諸 胸 訂正傷寒論註少陽全篇 桂 散 證 渴 身骨節 中痛 枝之上為雙 身 太陽未盡之邪取柴胡之牛 雌 故 中病轉者及病似柴胡 仍 有 不 去而 用之 解之矣然惡寒微則發熱亦 微熱者法當去人参以大 者是已此條言傷寒六七 不疼可知微嘔心下亦 巴 外 輕裏證雖已見 證雖 解 兩陽之輕 在 而病機 以 丽 本 也 解

傷寒五六日已發汗而復下之胸脇滿微結小便不利渴 础 第 图 分 金 器 光 工 頭汗出往來寒熱心煩者此為未解也柴胡桂枝乾薑湯 而

主之

嘔

但

傷寒五六日已發共汗表未解而復下之若邪陷 人 陽明

裏故合胸肠滿微結也小 裏則必作結胸痞鞕協熱下利等盜今邪陷 便不利渴而不嘔者非停水之 八少 陽

故 惡寒心煩者乃陽明表熱鬱而不得外越之頭汗也今但 乃汗下損其津液也論中有身無汗獨頭汗出發熱不

和上蒸之頭汗也此為少陽表裏未解之證故主柴 汗出往來寒熱心煩 者無陽明證知為少陽表熱鬱而 胡

生文だ豊易以事でとちつりまなや夏と古也

頭

不

桂 枝 乾薑湯以專解牛麦之邪兼散牛裏之結也

林瀾口五六日已經汗下之後則邪當解今胸脇滿微結

寒熱心煩者是邪 糆 在 华 表牛裏之間也小便不利 丽

叩區 汗下後山津液 液 知 非 不足而未和也與柴胡桂枝乾薑湯以解表裏而 飲熱也傷寒汗出 內 燥 也若有熱飲其人必嘔今渴 則 和今但 頭汗出餘處無汗 而

液 也

汪 洗 日傷寒頭汗山 者乃陽戀於表非陽虛於上也

印息等於公益一分丘 桂枝乾薑湯力 觔 桂 技三兩

胡

訂正傷寒論註少學全篇 乾薑

雨

公皇 医巴二人名 金一人名 马 廿草二兩 枯葉根四 解註 之變法也去人參者因其正氣不虚減半夏者以其不嘔 少陽表裏未解故以柴胡桂 桂 恐助燥也加栝蔓根以其能止渴兼生津液也倍柴胡加 右 不益心煩也諸藥寒溫不一 枝以主少陽之表加壮蠣 散往來之寒黃芩佐柴胡以除往來之熱且可制乾薑 升日三服初服微煩復服汗出便 七味以水一斗二升煮取六升去洋再煎 雨 黄芩三兩 必需甘草以和之初服微煩 枝合劑而主之卽小柴胡湯 以耎少陽之結乾薑佐 愈、 雨 取三升温 桂 服

i

と見以

于日中愈省可印此證非行出不解也

事等完定国公下 風 胡湯 而 鄭 力 寒之 治 陽 重 己渴 未 宗 胃 執 明 光 **应站** 少陽 也萬 邓 及 EI 規 丛 日少 復 已 從 者 津 即 當隨 柴胡 轉 陽 屬 服 根 液 罪 彩石. 屬 自 陽 明 也 汗 影 ifil 出 湯 朋以 渴 朋员 虎 陽 明之 陽 Thi 調 傳 卽 E 柴 明 呵 **訂正傷寒論註少陽全篇** 明 法 愈 現 涸 胡 少 也 病 知 胃 以法 湯 被 間 陽 治 者 者 機 證 可知 各 起 在 MI 共上 屬 從 治之謂當 1) 初 ME 始 其安 此 湯 陽 陽 1111 故 不渴今服 證非 泅 明 以 邪 til 則 thi 非 用 法 分 渴 不 柴胡 傳 暫 出 治 則 三陰 渴 經 轉 可 府 角华 見 业 而 熱

伯多四 出 陽 傷 外 衇 寒 微 也 細 胄 H 衇 者 知 假令純陰結 鹹 知 此 雖 非 府 引 **派性元紫性学可**新 鹹 爲陽 5 耗 當 1 沈 自 也 们的 難 陰也 津 用包 鱼 繁 頭 在 是 沉 少陽 不得 微結 消 分分 衇 汗 繁 出 不 水 胡 之紫 可 远 得 湯 如 與 爲 必 微 此 細 有 惡 屬 渴 飓 小 復 学 觀 小 寒手足 當 陽 多 表 當 水 柴 陰病所以 有 明胃病 jt. 雕 胡湯 外 複 是 條 調 一若服 有 諮 有 下 細 III 裏也 陽 悉入 冷心下满 設 文 字. 必是傳寫之候 然者陰 不了了者 柴胡湯 明 也 本 衇 在 豁 衇 條 沈 裏此 不 沉 亦 上文並無緊字 巴 亦 H 可 在 不 攻 加口 得屎而 不 得有 裏也 爲 在 欲食大 渴 之 裏 半 者是 因 在 世 之 汗 病 亦 裏 汗 角平 未 便 出 離 鞭

即 註 気を見らい 傷 矣 衇 說 滿 寒 通 微 夫 則 也 邪 衇 五 身 給吉 旣 雖 所 **总** 監問 汗 不 細 非 得 結 沉 今 也 似 復 欲 日 故 殊 緊 頭 悉 乎 出 寒陰 難学 峽 食 我一直 微 微 八 雖 汗 有 雕 在 也 出 頭 大 表 惡 故 寒 故 果 汗 盛 便 有 何 近 鞭 也 知 細 出 日 頭 所 訂正傷寒論註少陽 Mij 之外證 純 設 非 頭 此 之 汗 不 謂 陰結 陽 得 不 少 汗 爲 出 則 了了者 陽 出 結 陰 爲 微 必 是傳寫之 惡寒之 微 世 小 此 始 則 已 陰 結 合 形 叮 必 爲 悉 病 爲 表 必 但 必 與 陽鬱也 陽 所 有 手 入 半 大 小 在 表 别的 候 足 便 柴 以 在 未能裏 泉之 然 東 復 冷縣 胡 之 华 湯 者 假 有 颠 在 純 裹 合 沉 陰 除 表 陰 純 也 有 細 則

化 註集 金 医 に に パフ 程應 陰結 程 裏之證矣果 故 喻 陰並 語其義 鬱結之診無關少陰 知 列 利 旄 日此言少陽 及陽邪若 氣 其大使使得 五鱼 日陽 日凡蘇 一陽峽 結聚大差 起 微 先 亦 結 明 爾 者 似 細 不 則 陰結 微 陰矣 病 陽 屎 果 鹹 結是純陰邪內結則不得復有外 羽的 沉 爾 1111 有 又是陰氣衰微 微結未盡散也舊註作陽氣衰微 也可見陽氣一經 皆陰鹹也今與陽 似 其IJ 解 頭汗出 少 也 陰者當 爲 **丛陽之證非半** 細 辨 矣 證同 其鹹 鬱結不但 玩本文假 見 證 則 也 表华 爲 陽

九月宗 司 导 來 而 解當 用大 柴 期之 法 也

卸 寒路宗全監 85 難 吳 沈 爲 楊俊 辨 因其 之故 少陽 人駒 明宗日得 得 晰 旣 ス 、惡寒 衇 多 病 有 仲 日此 取 日 汗 景特出 此 小 不 用印 不 柴 得純 得為 此仲 也 條惡 手 屎而 證當見有誤作陰寒 足 胡 至 景所以 提 冷 以 少陰之病然獨 寒肢冷不欲食脈 陽微結三字昭示 五 解當用大柴胡之法 表 六日 出其 衇 訂正傷寒論註少陽全篇 藥汗之外 細 又明言 那 頭 而沉不究 於表裏之半 痛 發熱證 半在 證似 未 而 見少 千古以 組 其證之始 施 陰 表 或沉 溫熱以致 也 原屬陽也故 而大便 陽 半 不 頭汗出 得 有 在 證 裏也 復以 似 大逆 何 乎 由 爾時 新從 陰 來

不多医国际人工金一名日

了者則當下之得屎無疑也仲景恐人未明自為詳辨然

知手足冷微惡寒者正因陽 邪鬱結不外通於肢體故

獨頭汗出也

傷寒陽脈渦陰脈弦法當腹中急痛者先與小建中湯不差者 與小柴胡湯主之

計傷寒鹹得浮濟營衛不足也鹹得沉弦木入土中也營傷 不足 則表處木入土中則裏急惟表虛裏急腹中急痛 所

或不差必邪尚滞於表 以先用小建中湯以其能補營衞兼緩中急則痛可差 知濇爲皆衛不通弦爲少陽本 血派 也

放與小柴胡湯按法施治也成無已去黃本加芍藥

就

問中其免亦是

傷 意代及当二下 寒胸 註集 其 傷 对 汪 邪 詞問 若 寒 中 琥 因 寒 中 而 也 有 內 降 邪 未 全监 和 其 證 之常 弦 内 角罕 熱 同 因 解平 說 攻 胃 亦 之地 颠 杂生 MI 欲 治丘 情異 世此 中 故 病 叩显 然 有 用 吐 門區 除 黄 此 痛 吐 熱 邪 概 者 蓮湯 可 屬 邪 而 訂正傷寒論註少陽全篇 胸 氣 稻 中 腹 腹 外 在 未 年痛 痛 有 因上 胸 寒 止 者為 温 寒 熱 者 多因宿食 下 耳 邪 邪上逆也腹 欲 不差此 寒 嘔吐者黃連 用 在 熱 胃陰陽之氣 甘 2 苦 后 那 並 由 少陽 中 施 此 故 以 痛 湯 推 有 不 主 系亚 調 者 如 理 和 有 是 中 陰 留 因

黃連湯方 有 多图片 人參二兩 黃連三兩 大聚十二枚 註程知 **日陰邪在腹則陽不得八而和陰為腹痛陽邪在上** 失其上下升降之常也 鄭重光日此 則陰不得入而和陽為欲嘔逆 汪號曰尚論篇皆以風寒一那分陰陽寒熱殊不知風之 初來未必非寒寒之既入亦能化熱不可拘 熱邪中於上焦寒邪中於下焦陰陽不 甘草污雨 桂枝三兩 乾薑三兩 华夏淮升 也 相人

しっしまり、

一十新汉八件去宰温眼畫三夜一

部 慕路宗 在監 & 左 解方 曹以溫胃中之寒半夏降逆佐黃連嘔吐可止人參補 寒 傷 相 之裏虛懊慢舌上如胎者以梔子鼓湯之類是隨 **鞕滿不大便而嘔** 右七味以水一斗煮取六升去滓溫服畫三夜一 乾薑腹痛可 格寒熱並 寒溫不一 寒邪氣入裏因 丹田有熱化者 徐 嘔吐故以是方主之君黃連以清胃中之熱臣乾 甘 施之治法 苦 除 也此 並 桂 香上自胎者以小柴胡湯及太陽病 人藏氣素有之寒熱而化病如陽 言正傷寒論註少陽全篇 投故必加甘草協 枝 地 所以安外大棗所以培中也然此 則隨胃中有寒胸中有熱而化 和諸藥此爲陰 能 胸 中 明 陽 腹 病

太陽病十 與小柴胡場飯祖浮者 註集 王肯堂 註太陽病十日以上無他證脈浮細而嗜臥者外邪已解 等證則仍是太陽之外邪未解當與麻黃湯 陰 陰歐也歐浮細身熟嗜臥者陽也歐沉細身無熱嗜臥者 論中歐浮組太陽少陽歐也歐弦細少陽歐也歐沉細少 小柴胡湯和之若鄉但浮不細而有頭痛發熱惡寒無汗 須藥也設有胸滿 也蘇緩細身和身和嗜臥者已解也是皆不可不察也 十日以去够浮 子な 曰此條當 ララー 是太陽少陽合病胸滿雖同而脈浮 與麻黄湯 細 肠痛等證則知少陽之外邪未解故與 而嗜臥者外已解也設胸滿肠痛者 行之 細

皆从川宮長中コーにか前為り易有形女は、小柴胡湯が

中年を育民となったころ 傷寒發熱汗出不解心中痞鞕嘔吐而下利者大柴胡湯主之 註傷寒發熱汗出不解表尚未已也心中痞鞕大便不利 裏 妆 下利之下字當是不字若是下字豈有上吐下利而 攻 之言非爲服柴胡而鹹浮也 嗜队則為表邪已解肠痛為少陽有邪故與小柴朗湯若 衇 胡揚下之之理乎 熱結成唇故以大柴胡湯外解少陽發熱未盡之表內 陽明成實痞鞕 又急矣嘔吐少陽陽明兼有之證也少陽陽明雨 但浮者又當先治太陽也故與麻黃湯此是設為變通 之裏也 訂正傷寒論註陽全篇 作 急心

湯下之則愈 與小柴胡湯嘔不止心下急鬱鬱微煩者為未解也與大柴胡 大陽病過經十餘日反二三下之後四五日柴胡證仍在者先 **御寫四門在銀一卷** 註太陽病傳過三陽之經十餘日醫不隨經施治反二三下 太陽病發熱汀出不解心下痞鞕下利不嘔吐者此表裏 俱虛桂枝人參湯證也若嘔吐不利者此表裏俱實大柴 胡湯證也彼則飯微弱此則鹹必有力也 在者乞先與小柴胡湯解表和裏如或不愈其嘔不止心 之未致變遊後四五日惟見少陽寒熱往來之柴胡證仍 滿急鬱鬱微煩此為少陽表裏均未解也與大柴胡湯

下之攻裏和表自可愈也

註集 方有執日過經與壞病同 並故曰反也下 之攻襄和表自 可愈也 而 又下陽 不 明 4口 雖 何逆而二三下之適 未傷而少陽亦 未 所以 除

解 也

柴胡證

仍在也

叩區

不

止

鬱鬱微煩

乃邪擾二

程 那 知 因 日此言過經 屢下而深 入若表證 誤 下有 用 未罷 大小柴 必先 胡兩解法也葢其 用 小柴 胡 和其牛

叮 兼攻其 裏也

1年夏中三人公公四人代二人 酌量陽明證 條與 陽明 嘔 訂正傷寒論註少陽金倫 在上 經 而 嘔 邪 多雖有陽 亦 在 .膈之上 明證不可下之條

細

細

應

旄

月此

大柴胡湯方 往第暨宗在碼一卷子 柴胡半角 生黃五兩 対薬三喇 三服 中有燥屎也非下除之不可故以大柴胡兼而行之 林 右八味以水一斗二升煮取六升去滓再煎溫服一升日 可 瀾曰嘔不止則半表裏證循在然心下急鬱鬱微煩必 下此條嘔不止心下急乃邪在膈之下已屬胃乃可下 可下不可下此等處最不容誤也 枳實四枚 大東十二枚 黃芩三兩 大黄二兩 半夏半升

許叔微曰大柴胡陽一方無大黃一方可大黃比方用大

卸貨祭等宗 陽病 與祖 梅沙梅沙 按 解方 柴 小 枳實为藥者 被 過 胡證 加 者以大黃 九又 人黃將何以 用大黄 微目 呢 經 煩 大黃所以寫 ビニ 在 胸 此 餘 中 大柴胡陽一方 又 有蕩 復 時 解其 恐 有 心心 不 名 中 結 裹 心 極 外 **修** 為熱之功為傷寒 吐 放放立 下之急 着 熱也 訂正傷寒論許陽金篇 大 溫 以 柴 此 下 溫 不口 其內 欲 胡湯 少 無大黃一方有大黃此方 柴 與調 生薑 陽 吐 平 胡證以 也去 應從 而 Ħ 兩 胃承 用匈 經文明言下之 角军 中痛 一參草 因 之法 未又 吧 叩配 氣 微 中要藥王 幅 书 故 湯 以小柴胡湯 為是 大 不 以裏不 若 便反 久山 止 也 極 塘腹 則愈若 吐 爾 乔卫 用 也 加

有金百二人工金 另一 註 按 其裏邪熱乘虛入裏故大便反消腹微滿鬱鬱微煩也 紀先時若果經極 太陽病過經十餘日會經吐下不解者以極吐則虛其自 邪 爾者謂不因極吐 承氣陽矣然此亦非柴胡證故柴胡湯亦不可與也 一 被 服 者少 陽 也 一肯堂曰溫溫當是嗢溫又云以嘔之下當有闕文 熱乘虛八胸故心下 者皆是裏證未和故空與調胃承氣湯下而和之若不 之利也並無心中盟盟鬱鬱腹滿煩熱等證 胸中痛者太陽也微塘者太陽少 極下而有斯路則又不可與是湯也夫 吐 下則為在表之邪熱悉陷胸腹 盟盟欲吐而胸中 痛 也極 固 不 而所 須從

太田小山村山門村田田村田大村

1

可是世量且加丁九

別な交互に入上社の一天二人 註集 魏 M 喻昌目太陽病 **鞭**也故曰先 欲吐乏狀 太陽少陽 便微 文之意 不得些 中 以种其、胃 痛 海何 也 何 胸 合 便 此時 病 也 中 反 也 腹微滿鬱鬱微煩 也以胃口 溏 週 痛 不 以 腹 經 自 下 利 爾言未經 邪 則胃虚 訂正傷寒論註少陽至篇 微满攀鬱微 若 極吐 在 餘日心 已被 膈也若曾紀一吐 嘔 者與黃丈 羽 極 吐 吐下 傷型熱上搏於膈 雖實於胃大 邪 在胃也 調胃水 嗢 煩 岩山此 世 PM. 加 但 欲 則應有心下 半 若曾極 层 吐 欲 氣湯言當蕩 夏生碧湯 嘔 而 便反不能結 至未 不吐 故 其 則 唱 欲 明 應 門品

竹隻盛門河白銀 皆在陽經留連若在陰經則又豈能若是之持久 解也豈惟十三日且有二十餘日者矣益過經不 屬陽 傷塘非下所致調胃之法不可用矣 程 程應旄曰大 未經 腹微滿攀鬱微煩必胃有阻留而下後仍不快暢也病 不能安望其生乎 知日過 吐大下者表邪從吐 明證反無陽明而祇有少陽其中必有所誤故直窮 極吐 オオ 經 便漕則氣得下洩腹不應點順不應鬱鬱 下但 者謂病過七八日至十三 欲 幅不 幅胸中痛微 溏者是痛非吐所 解且已入裏可用調胃承氣之法 日經氣已週循 解病必 聊

いてしたない

コーコルスト

いと以記しから

りしたとする 쳵 熱者實也先安小柴胡湯以解外後以柴胡加匹消湯主 寒十三日不解胸脇滿 胡證下之而不得利今反利者知醫以九藥下之非其治也 此 **光藥迅下之非其治也** 凡傷寒過經不解熱邪轉屬胃府者多皆當下之今傷寒 其所以致證之由而後 本大柴胡證也下之 胸脇之邪未已故先 下後之利為虛故復 というとしているという 解過經胸 脇満 訂正傷寒論計少陽全篇 而 而不 空小 指曰潮熱 迅下 嘔日晡 可從證上認 而嘔 柴 則 通 胡 利 日晡 水 所發潮熱已而微利此 今 若質也是 雖 去而燥 所發潮熱已而微 反 利者詢 角军 少 陽之 可 者仍存恐醫 再 知 為醫以 世

柴胡加达消湯方 省第三 分金 五 能內臺方議曰潮熱者實也何不用大柴胡大小承氣下之 **岩再用大黃下之則胂氣傷而成壞證矣祗用芒消潤燥** 原其壞由於醫之誤以下至未救誤之治也 以取利也一个学典最大神子 之意也 方有執日十三日過經也不解壞證也非其治也以上乃 却用达消何也葢潮熱雖屬實然已失用光藥傷動藏府 小柴胡湯加达消以下少陽之裏不用大黃而加达消者 因展不急且經迅下惟欲其與堅潤燥耳是又下中兼和

於小米川易方为中之首片兩余太前夫是一

也 利 印集的民会监人多五 寒十三 於 盐 自 小柴 讝 此 便常鞕 知為醫 表裏當大 語者以有熱 承 日 胡 小 Ł. 湯方內 者够當 便 不 條 以 解過 利 互發其義以詳其 而 九藥 者 反 便 大 加 微 也當以湯藥 經 不 下 厥今反 鞭此 讝 赵 P 便當輕今 利 消六 訂正傷寒論二少陽 之之利 語 衇 條讝 者以 調 和 和 兩 非其 下其熱 者 有熱 治 者 語 餘体前法 此 便 也傷寒十三 知醫以九藥下之非其治 治 熱熱歸胃府法當 爲 也當以湯下之若 不 內質也 鞭 但 也 如 服 Mil 條 反 E 不解 目 調胃承 潮 經 下 熱之熱 利 九 现 解過 觚 小 氣湯 和 便

傷寒三日三陽為盡三陰當受邪其人反能食而不嘔此為三 陰不受邪也 伯 莊傷寒之邪一日太陽受之二日陽明受之三日少陽受之 M 自 也 仍當下其熱故以調胃承氣湯主之 不能食而嘔今反能食而不嘔者此為裏和三陰不受邪 第 微厥此為內質有熱非內 然此乃內經以其大概而言究不可以日數 日太陰受之五日少陰受之六日厥陰受之此傳經之 下利者則為內虛內虛之利飯當微弱而厥今反和而 与白鱼 也今傷寒三日三陽表邪為盡三陰當受邪其人當 2年1 虚 有寒也雖下利乃熱利也 拘 也

集战無己日長川專裏裏不利則不能食而區今反能食面

傷寒六七 印度经月六 註 **盐成無已日表** 裏熱盛也此 回陰 傷寒六七日邪 氣 汪 嘔是 傳三陰斷斷 琥 有執口陽以表言陰以裏言能食不順裏氣和 之 和 不受邪 日那 日 公園とおり 無大熱其人躁煩者此 110 少 在少陽原嘔 陽之邪 傳陰但 為陽去入 可 邪傳裏裏不和 可必 欲入裏之時也 知 矣 訂正傷寒論三少陽全篇 故 在陽 自 陰也 云三陰 不能食 解 秦 五年 在田山 實力 世 也 陽去 裏鲵 則不能食而嘔今反能 無大 不受邪 今反能 為陽去入陰故也 和而 熱表熱微 **会者謂陽邪去表** 食而不 少陽之邪 也 也 旭 躁 艄 而 後裏 煩 則

用匈 人中風 脇 一而鴻之 **盐成無已日內熱為煩謂心中鬱** 內 裏傳於三陰也 有執 則 外熱為無根之火故但躁不煩及先躁後煩者皆不 也內熱為有根之火故但 五角 發 烟 如結胸狀嚴語者此為熱入血室也當刺期 熱惡寒經水適來得之七八日熱除而城建身凉 躁 日去往也言表邪去而入於裏所以外無他熱 为 北 頰 不 煩 燥及先煩後躁者皆 也外熱為燥謂身外 門 隨 熱 PAN

一成是北京と言うりと

1

1

S E

節皆宗 註集 計 當 容 胸 所 婦 刺 解 欲 此 室 謂 有 网 中 人中 刺 期 解 个 裏乃 **企** 執 矣 傍 ifu 血 門 期 經 隨 各 散 海 風 若 門 復 加 去 故 表 是 其 水 期 發 忌 室 熱 同 血血 熱 也 適 門 邪 見 五 身 其 分 爲 寫 之 胸 來 悪 档 寸 丽 衇 肝 熱 得 寒 脇 訂正傷寒 病 之穴 熱 表 趣 心。 因 下 停 作 於 满 病 丽 經 寸 其 氣 留 湛 世 水 肝 如 衝 之所 若 正 證 之 爲 適 結 日 分 則 並 也 藏 後 桑堅 來 胸 15 如 肝 經 加 水 乘 狀 衇 陰 M. 是 之 虚 讝 遲 不 集會之 之 所今 來熱 也 語之 熱 Mi 經 尼 期 除 門二 夾 肝 身源 邓 於 此 證 納 臍 處 無 MIL 則 刨 血 室 矢11 似 曲 衝 在 室 平 也 非 傳 故

在為馬門 ML 室 中 汪 門 其 胸 熱 有 門 法 號 讝 血 風 所 血 H 以 陽 目 語等 必 七 療之 姐 那 以 明 室 給 風 爲 鴻 傳 B 稿 故 證 ML 那 續 血 實 1 是 使 與 八 在 分 陽 為 得 證 熱 少 H 如何 熱 7 寒 輕 陽 續 瘧 結 摶 實 用 熱 狀 m 得 华 其 MI 燕 發 發 未 Mil 寒 表 承 莹 也 作 質 熱 作 必 华 氣 故 有 發 有 世 裏 作 12. 時 時 倘 作 然 也 伐 有 經 小 有 雕 故 語等 胃 時 柴 水 CI. 加火 113 氣 適 胡 小 瘧 經 而 故 水 湯 斷 狀 無 柴 仲 特 主 者 適 胡 2 胸 出 此 湯 赛 肠 斷 恐 者 满 以 乘引 此 發 如 誤 期

平

寫 婦 明真皆宗金 註集 傷 用 用 程 此 故 惠 血室 小 寒 刺 有執 知 適 熱 條 柴 發 断者熱 自 以 日前 其 验 (血必 發 熱 無 胡湯 瀉 目前 解 犯 明 經 之此 證 也 胃 多 風 水 和 經 結 乘 經 巡 也 適 水 邪 氣 水 五 之 ML 熱入血室 及 來 來 因 適 來 上二焦 血 記 畫 而胸 Tho 來 結 遂 日 者 明了 脇滿結讝語是邪 而 入 因 之證 必自 寒熱 之 熱 幕 與後血 入 則臟語 ifit. 此 如 愈 瘧 條 至 是邪 發 相 ML 后 明 如 搏 出 見鬼 實 寒 發 Thi 俱 那 於 於 招 熱 熱 狀 經 滅 遂 者 也 也 血 此 故

 提集 亂之意 方有執 那 室之證婦 此 林 在 而 To 則 熱 瀾 三法皆不 畫日明 陰也無犯胃氣及上二焦者通謂三焦也益禁人 俱 乘虚八於血室若晝日讝 日傷寒發熱者寒已成熱也經水適來則血室空虚 出猶之鼻衄 明 立金 日必自 加松村 了 知 了幕 傷寒發熱無汗 为 可輕 邪 愈 不在 則 者言俟 嚴語如見鬼狀者是那不入府 用當候其經行必熱隨血去 紅汗故自愈也葢警人勿妄 陽 也暮 其 經行血 則讝語如見鬼 經水適來則必熱 語為邪客於府 K 則 邪 熱 人血室故 得以隨 而愈 與陽爭 攻以致變 闹 世 血

チャングノゴージ

少易光器を云下七下丁下台也胃氣也

往 印色是自己 痛 血 來 弱 寒 此 氣 熱 以 赫 結 क्त IIIL 使 熱 盡 室 悉 犯 胂 人血結寒熱 在始 腠 留 申 除 與陰爭也 嘔 休 其 者 上三條 作有 町 也 理 而愈 中 結 開那 病 焦 刺 不 2/2 必云 時 也 可 期 氣 陽盛 下栽 婦 默 必 門 與 者 自 因 此 脇府 默 與 發 訂正 人 愈 小 雖 汗 讝 與 語之 中連 欲 藥犯 場实論武少陽全篇 柴 風 者以經行 熱 飲食 傷 痛其 正氣 人血血 胡湯散邪發汗此 小柴 寒 其 下此 藏 E 相 室 經 搏結 胡 焦也若熱人 水 府· 則 Thi 不可下者犯胃氣 湯 無滿結 熱燈 適 相 土 亦 連 於脇 週 MIL 臣 痛 去 * 下 不 雖 N 必 正 加 可 胸 熱 致 羽的 刺 脇 血室 血 分 則 滿 期 也 弱 爭 邓

不会医 於 也 膽 氣 地 於 條 Tr 陰 少陽 循脇表 少 盡 少陽之界故 血 仍 地 與 陰 与五 一陽病 腠理不 堂 邓 貝リ 厥 鱼头 寒故 陰 從 中 之 之邪從胸 已入华 心以小柴 厥陰 求 胸 肝 密那 往 循 治 相 來 之 爲 那 也 脇 熱 結 寒 鹹 胡湯 裏 入裏 नित् 表 熱 2 將 於 下 裹 抵 氣乘 小 故 近 脇 也争已必衰 襄 脇 者使知法 下也那 日藏 腹 厥陰故默 氣 因 虚入於 上担 胸 循 而病 府 脇 IÉ 被 相 不外少陽 裏故其痛 使 默 及於 衰 相 血室那與 連 不欲 則止 爭 也少陽之 門區 爭 脇 也 飲食 仲景重 必及於 故 故曰邪 於 不必另從 休 陽 正 相搏 也少 作有 脈下 則 熱 出 朋热 時 陽 争 胸 痛

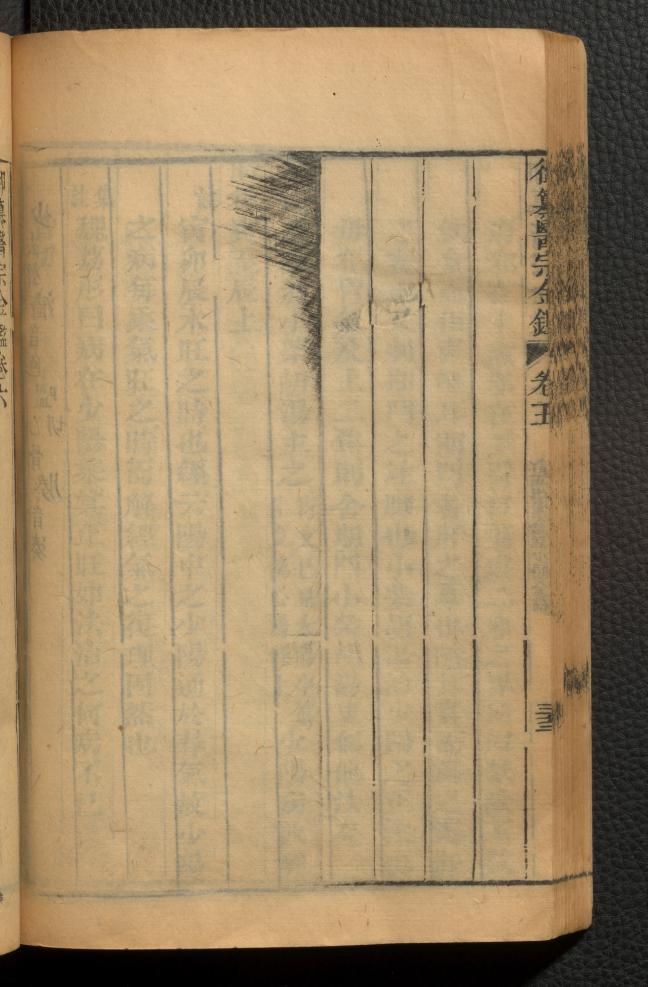
集計昌三四条当豆文見意也一云啞水適於一云經水道

御業路六位監しること 註喻昌曰四條皆互交見意 發 目 於脇下一云如結 也 上二焦皆互文以 重 細 作 作有時一云 明 一一云七八日熱除 以 了專則 釋全書思過华矣如結胸 有時一云剌 藏 腹 府 内 相 讝 連 厥 語如 胸 陰 邪 期門一云用小柴 胸 脇 見鬼 高 肝 訂正協英論註少陽全篇 明 狀一云邪高痛下一云嚴 下滿一云邪氣因入與正氣 而 之所主 大意 痛下之語暢 觚 狀 延身凉一云七八日續 也 而自為註脚也學者試 一云如瘧 也 狀 云經水適來一云經 前 四字仲景尚恐 少陽之膽與 發病情益血室 胡湯一云毋 狀一云往 1 語 形容 來寒熱 犯 得寒 相搏 一云畫 因此 胃氣 水 熱

時 嘔 不多智子合鱼一名王 註集 從寅至辰上 丽 魏荔形日病在少陽乘其正旺如法治之何病不已 音 之病每乘氣旺之時而解經氣之復理固然也 寅卯辰木旺之時也經云陽中之少陽通於春氣故少陽 發熱者小柴胡湯主之年夏海心湯條上一少陽病欲解 班 飲 之實也又刺期門之註 府 切 犯胃氣及上二焦則 食而但喜嘔耳 邪在上藏邪在下胃口逼處二邪之界所以默默不欲 期門者肝之募也隨其實而寫 舍期門小柴胡湯更無他法矣 脚也小柴胡湯治少陽之正法

り去聲雪音色型し骨奏音奏

印金产公司公司			少去産
即意及至天台监。			少去聲音音色溫乙胃族音奏
訂正傷寒論註少陽全篇			門族音奏
33:1			



以影響的企	桂枝加芍藥湯	· 乾薑黃連黃芩人參湯	御纂醫宗金鑑卷六
-------	--------	-------------	----------

訂正仰景全語傷裝論註太陰全篇目錄 統宣院進置某人發易 厚朴生觀半夏甘華人數遇

一川為時的一大正是此代

印金客自公公公四 安二 纂殿三文金鑑念六 辨太陰病峽證并治全篇 訂正仲景全書傷寒論註 傳且以傷寒傳經陰邪 而遂以為奇即自後漢迄今千載以來皆謂三陰塞邪 六氣之邪感入雖同人受之而生病各異者何也益以 化理 形有厚薄氣有盛衰藏有寒熱所受之邪每從其人之 氣而化故生病各異也是以或從虛化或從實化或 或從熱化警諸水火 固然也就知乎此又何疑乎陽邪傅陰變寒化 訂正傷寒論註太陰全篇 謂為直 水盛則火滅火盛則水耗 中抑 知直中乃中寒之證 物盛 熱

在 多國門与 全金一名

論中下 坑 非傳經之邪即是皆未曾熟讀仲景之書故有此候耳如 四逆湯攻表宏桂枝湯此三陽陽邪傳八太陰邪從陰 利腹脹滿身體疼痛者先溫其裏乃攻其表溫 利白通湯主之此太陰寒邪傳

少陰之寒證也如下利清穀裏寒外熱汙出而厥者 通 衇

化之寒證也如少陰病下

豈得謂傷寒陰不相傳無陽從陰化之理乎夫太陰濕 MI 遊湯主之此 少陰寒邪 傳 厥陰之寒器也皆歷歷可據

純陰之藏也故病一人太陰則邪 小小 從陰化者如論中腹滿吐食自利 從陰化者多從陽化者 不渴手足自溫時腹

自痛安

一服理

中四

發行

で平方は明治ないでは、一般にあるというなは、

太陰之爲病腹滿而吐食不下自 削 首成及目のに 公 出血 へという 要法 陽明亦有腹滿者以陽明腹滿與熱同化故必有潮 痛兩皆有之然腹滿為太陰主病心下滿為陽明主病 穢腐之證也 實斟酌溫下則了無餘義矣故以此括之自知太陰之 不大便之證而不似太陰與濕同化有發黃暴煩 解腹滿痛者急下之宏大承氣湯腹渦大寶痛者宏 加大黃湯主之者是也 也 誠能更於腹之時痛大質痛腹滿漏處詳 訂正傷裝論註太陰全篇 利 益甚時腹自痛若下之必 熱自 滿 腹

名多庭山に白田 接吳人駒目自利益甚 是若在 吐食不下向之下則是已吐食不下而自 四字當在 **必胸下結鞕何之下其**說 利益

試太陰脾經り 甚矣仲景復曰若下之無所 時腹自痛寒邪循 也其城 布胃中 **嵊犯胃**故吐食不下此太陰裏虚邪 絡 謂 於監寒邪傳於太陰故腹 也

滿

寒化之證也當 大寶痛始為太陰裏質邪 以理中四 遊靠溫之若腹滿監乾 從熱化之證當以桂枝 加

湯下之矣若以太陰虛寒之滿痛而誤認爲太陰實熱 滿漏而下之則寒虚相搏必變為藏結宛雙及自利益甚 矣此太陰病 全篇之提綱 後 凡 稱太陰病者皆指 證

即 言を及野に下 と B四 へれら 計集 陰 下 利痛 腹 程 病為實份 胸之在 遊 異於痞之濡 應 也 痛 加吐 騎 itis 旄 得 寒痛 目首 食 利 日陽 歸寒熱 胸且被之而 則痛 不下 mj 利 也 习尽 有時 下 1/1) 1 隨 則滿為寒 亦 之其 大 頭 川河 有 利 望 减 别 11 而 SERVICE OF THE PERSON OF THE P 腹 傷寒論註太陰全篇 滿益 腹自 也 彼 者今下 陰 为词 满 皆 脹 也 邪 得 痛 結於 甚 陽 吐為 日 吐 從上 必 結 非若積蓄而常痛 利 則 合 滿去面 胸 寒格 轋 而 胸下皆 陷 無陽以化 下之陰分異 時腹自痛 गीं। 也陽 E 阻 食 爲結 留 邪亦 可下 此 氣 則 者若 鞕 则 則 利 有 村今 爲 而 陰 陽 為 1 区人 損

介 皇屋に ラノコ 全世 人 益甚矣

傷寒四五日腹中痛若轉氣下趨少腹者此欲自利也 註傷寒四五日邪八太陰之時也腹中痛若不轉氣下題者

之候也此仲景示人不可以諸痛為實而安議下之意也 屬陽明也今腹中病轉氣下趨少腹者乃太陰欲作自利

方有執日腹中涌轉氣下趨者裏虚不能守而寒邪下進

世

張路曰腹痛亦有屬火者其痛必自下而上攻若痛自土 而下趨者定屬寒痛無疑矣

魏 務形日此重在預防下利而非辨寒熱也玩者字欲字

リ島は半男パンドリカリオ

自 盯 利 在有受目台下人公出回 註集 遊輩 屬 P 證者以其寒 湯者屬 見其辨 應旄 自 利 陰也今自 矢印 故太陰 着 水 目言 利 故 ता 太陰自 M 寒邪者 自 灟 大陰 一陰同屬 在 自 逝 者 利 利 利當溫 理中 裏 以其藏 中 不渴 响 利 渴 有 自 熱屬 藏 附十 正正 爲 總、 太 知 有 為太陰 子等 與龍 寒宏 陰屬 别法 寒少 傷寒論註太陰全篇 也 有 陽 寒故 陰 汨溫 雷之火 也 月早 湯 一台自 而言 也當溫之室 本 厥 土 者也少陰屬腎水 一寒八而 藏 陰有渴證 無涉少 也 利 有 寒 不 從其 渴 也 U 一服四进 太陰獨無 陰中 則 公常温之 為裏有 濕 有 熱 渴 四 寒 161

丁 超 有已人 原 另 小 生

在倉屋門方白銀 底 陽 魏務形目自利二字乃未經 誤下誤汙誤吐而成者故知 寒甚則龍升故自利 照雷雨收聲故發 熱則利 而渴厥陰中有雷火故有消渴太 止見厥而復利 也

理中圓方

其藏本有寒也

乾薑香

白术

甘草炙

四味擣篩蜜和為先如雞子黃許大以沸湯數合和一 及湯湯法 研碎溫服之日三四夜二服腹中未熱益至三四 以 四 物依兩數切用水八升煮取三升去達

四四

服

一升日三服

いまず自己の当世のよう 寒 腹 腹 。吐 欲得 满 为 中痛者加人参足前 **臍上築者腎氣動也** 多者還用术悸者加 加口 服一升日三 人者去术 者 用乾薑足前成 減法 宝术 水 沙川 發揭 者加 力印 加口 术 生薑 衣 展 附 足前 子一 被 四 成 傷寒論註太陰全篇 枚 网 去 成 兩 茯苓二兩 术加 半 服 四 四 湯 兩 兩 後 # 华 桂 如食頃飲熱粥一升 四 兩 丘

解集 也参大 程應 伐 都 腎雙溫加 郎中 The 薪 亚 腎 整 藏六府皆受氣矣 全量 失 旄 騰 邪 焰故 炙草所以守中 氣 日陽之動 則 陽氣是以穀 名 加 失守膻· 学生 壅 生. 曰 之以附 理中 氣 畫 故臍 至清 以 實以 始 中 止 於 無 蒙 子 嘔 下 發宣之 變理之功子中焦之陽 溫 州 於 JIL 動 則命門益 也 失 溫魚 陰長氣於陽上輸 乾 理中之旨也若水 氣 加 滋味五 吐多腹 附 用六府無灑陳 得 子 而穀精運穀氣升 而土 以消 溫 藏 滿 皆去术 母溫矣白术 中 凌奪諸證所 陰也下多 必 華恭下 假之以 寒 也葢謂 之功 也 ·五 者濕 勝 力口 न्ति 攝 燃 由 循 桂 補 包印 女口 當

温湿

用木燥濕也渴欲飲水飲渴也加大吏次比律生也

曹黃連 傷寒本自寒下醫復吐下之 者 5 也 黄芩人参湯主之 加乾薑 還 1 13 MI --- 1341 悸停水 用木燥 寒甚 濕 也加茯苓 也渴欲 世 導水 寒格更遊吐下若食入口卽吐 飲水飲渴也加术使飲化津生也 也腹中痛倍人参虚痛 也寒

进 論 中 抽 可知 無 寒下之病 寒下之 下字當是格字文義始相屬註家 亦無寒下之文玩本條下文寒格

旧真我門子会当門名之 皆釋胃寒下利 即吐胃 格 ,則吐逝 熱 格也本 格 不 但文 者吐 並 自寒格 逆之病 傷寒論註头陰全篇 義 不屬 謂其人本自有朝食暮 石也朝食暮吐牌 且與本連之藥不合 寒格也

治寡唇与合鱼一生

寒格之病也今病傷寒 醫見可吐可下之證遂執成法復

行吐下是寒格更遊於 吐下也當以理中湯溫其太陰

丁香降其寒逆可也若食入口即吐則非寒格乃熱格也

弘薑黃連黃本人參湯方 當用乾薑人參安胃黃連黃本降胃火也 小無鬼下と文元

乾曹

黄連

界岑

延終 支通吐 下若食

人多各三兩

右四以以水六升煮取二升去浑分溫再服

傷寒醫下之續得下利清穀不止身疼痛者急當救裏後身疼 痛清便自調者急當救表救裏宜四遊湯救表应桂枝湯

傷寒醫不分表裏寒熱虛實而誤下之續界下利清製不

印象各学公监《长人 計傷寒醫 **註集王三陽** 止 11 調 陰寒 者寒其 緩急不可 裏寒已盛法當急救其裏俟 灣和 救 救 其表 果 攻 極 後 稀了 不分表裏寒熱虛質而誤下之續得下利清穀 盛 集 ille n 裏必須先表後裏 73] 也 再 證當 也 輕搜 也 行 不 得不 救 救 强隹 裏室四 表 1 邢 有 一逆桂枝 急救其 顧協執 記傷寒論註太陰全篇 通身疼痛之表未 也 逆 裏俟裏證稍定 始 湯溫 也 利 無倒行逆施之患 須 便利自調 中勝 審其利之色何 寒救 除 但 E 113 身疼 仍救 表定柱枝 利清穀 如與 痛 惟 在

攻 利清 表室 进地 利 此 腹 誤 也 見總以溫裹為急故當先溫其裏後攻其表溫裏室四 者裏寒邪 湯 一桂枝湯 攻其表郎使汗出太陽表解而太陰寒凝必脹 詳上條不先救裏而 穀不可攻表汗出必脹 承上條互發其證以明先裏後表之治也下利 脹滿身體疼痛者先溫其裏力攻其表溫裏左四 下利清穀太陰寒邪已傳少陰即有身痛不可攻 攻表左桂枝 全鱼 也身體疼痛者表寒邪也凡表裏寒邪之證 湯 發其表以明太陰少陰同病之證 浦 满 腹脹 表若

集方方佛司是虚長實生是也女公七八生上實也故可

發汗後 即其是阿巴公監 註成無已日吐 陰 方有執日裏虚表實惟其虚也故必先之惟其實也故 發 琥 不足 裏而為實 查
は
草
半 腹 宏. 焉 災脹滿者 矣 後 日此 飓 表已 條乃 氣 厚朴生 後脹 地 不 夏人参湯 角罕 一發汗後 通 而腹 满與下 後 故 氣氣 壅而 訂正傷寒論註太陰全篇 滿者太陰裏虛之脹滿也故以厚 藍半夏甘草人參湯主之 虚 則 主之消脹散滿補中 腹脹滿其人 外 後脹滿皆為實者言邪氣乘虚 寫 滿 解 也與 腹 、此湯 脹 雕 滿 作 和脾 知非裏實出 脹滿而 降 胃而降 进 也 湴 朴

ツーラノノ

厚 位多唇号台 甘草二兩 下之宏 汗 木 厚 實 朴 陰 生薑半夏 虚 張 解腹滿痛者急下之五大承氣湯腹滿不減減不足言 五 主病發 去华皮角 则 錫駒 形 大承 **味以水一斗煮取** 所 不 能轉輸 鱼 曰此言發汗 以用人參炙甘草等甘溫補藥無疑 汗後 氣 甘草人参湯方 湯 生 人参 m 濁 腹 畫 氣 而傷其 切半 脹滿 一兩 不降清氣 三升去滓溫服一升日三 貝川 月华 知 其人腥 氛 不升而 半夏半升 也解主腹故腹 氣 脹滿作矣 素虚今胛 也 滿 月艮 氣 爲 太 愈

自此洋中上外一五发生之以川生治山及下之美山 邓复斯

用金段送百二八公 監 註集 討 程應 無疑矣 献 不痛 阶昌曰滅 以裹急先攻裏後和 此詳申上 不妨 腹 一一一分不足殺其勢 施曰下之而 滿不減減不足言之實滿也當下之空大承氣湯益 夏甘草人參湯 者乃腹滿時減減 再 1361 條互發其義以别其治也 不足言四 必當以 腹 減盡 訂正傷寒如註太陽全篇 滿 字形容腹滿如 表 證 也 如口 也 也今發行後表不解腹滿 復如故之虛滿 為度 放 此 即減去一二分算不得減 所 以縱有 也 繪見 發汗後表已 外 也當溫之厚 t 那未 滿至十分卽 角罕 而當 解腹 痛 村 滅 滿

理在藏 安壁口 大痛 平 則解因胃之實 不知 已成胃實又 金一年一 用單 太陰無可下之法也設在經則 則太陰尤 與胃相 而質亦 非凡湯之所能治故室太承氣湯 表裏也太陽候下太陰受邪適胃 無受下之處桂枝加大黃陽安能 即因太陽之邪而痛矣旣 各經已無可 有 也 無

太陰病城岸者可發汗宏柱故場

浮 太陰 外 時痛 俟 緩 經病鄉當浮緩 外 者知太陽表 解 一證其與不沉而浮便可以桂枝發行先解 。已再 調 其 內 邪 太陰藏病峽當沉緩今邪 猶 P 也 未全罷也故即 於此 又 回 知論 有吐利不食腹 中 身漏

利急光後裏對脈公下卒民

急先校 、泉者 衇 必 不 浮

註集 桂 枝湯葢 Mi 自 病 在 陰 太 陽 不 得 峽 有 浮 汗 無汗室麻黃湯 不必言也 不 用麻黄 رالا 血胶 淖 清亦 湯 Mij

亦 枝 者

以三陰兼

表病

者俱

不當大發汙也

無

陽 知 峽 此言 1 俱 太陰宏 浮今 一散者 峽浮 也 則 太陰 還 病謂有腹痛 於表 FJ 知矣故宏 利 桂

角罕

散

旅黃者

陰

病

得

發

汗

也

一桂枝

卸 秦善 云全温 應 旄 此 太 陰中 訂是傷寒論註太陰全篇 之 太陽 也 趾性 裏病 仍從 太陽

不不是四点人人

太陽病醫反下之因 不引那 入藏

ifij

腹

滿時痛者屬太陰也桂枝

加芍藥

計 之大實痛者桂枝 入裏餘無他證惟 本太陽中風病醫不以桂 腹 加 滿時痛 大黄湯主之 枝 湯發之而反下之因而 者此屬太陰裏虛痛也故

邪

陷

宏

大滿實痛 枝加芍藥湯以 則屬太陰 外 解太陽之表而內 熟 化 胃實痛也故友 調太陰之裏虚 桂 枝 加 也

以 外解 太陽之表 而 內及太陰之裏實也

註集 寒之 嗣與日太陰腹滿 那有 下後 內 陷 證有三有 之 邪 不 PJ 不 次第傳經之邪有直入中 辨

前目日太陽病之英下は後皆在向ぬ以二比八段下而

算 邪 程 也 腹 "俞 宗金 内 應 陽 陰 淌 175 陽 芍 陷 旄 分 用 明寺 -1 監 實 藥 榴 之 氣 桂 浙 以 滯 誤 切 裏 邓 本 枝 易 無 多十 從 調 以 10 於 初 方 浙 解 川刻 桂 太 和 太 分 陷 別し 不 朋加 2 陰 陽 殺 太 增 2 談 等 倘 許正 非 陰 例 其. 法 rhy 協寒論註太陰全篇 藏 成 315 未 越 則 質 與 發 寒 腹 W. 斯 升 變 病 满 加 大 峻 爲 發 皆 邓 那 痛 太 也 時 柴 攻 市中 E Æ 但 於 仍 痛 胡 但 F 陽 胸 加 證 大 用 湯 於 陰 2 脇 質 似 桂 陰 同 桂 位 羽飞 以 1 黄 ijk. 人 可 枝 枝 档 所 U 湯 部 義 滿 急 湯 it 对 以 破 見 1 升 也 11 宏 樂 Z. 屬 矣 發 少 從 者 談 然 陽 悉 加口 丛 太

北江

桂 桂 解集 木打: 枝 1 枝 於 柯琴曰腹滿 彭 右六味以水七升煮取三升去滓溫服 枝 加大黄湯 桂 加口 此 主 二一两 枝 芍 出 使 湯方內一 藥湯 兩 證雖屬之太陰實從太陽傳來則縣必何 表 太陰病 裏兩那各 金一分一 方 大黄 更加为 則 爲 生薑 腐穢 太陰陽 有 氣 二两 去路 樂三兩隨前共六兩餘依桂枝湯法 三两 切 疑不 明俱 则 有 利 寒遊實去不 大棗 故滿而府痛陽 之證然位同 对 枚十 六兩 擘 监 升日三服 而職 m 泮 明 自 溫矣然 異太 主 可 內陽 知 陰

明病

前萬城県古不丁女大寶而南北川工道南北湯用

餠 **鱼界这里二下**公 則 轉 胃 病 1113 除 倍 明月 痛 腹 表 氣 110 沥 1119 滿 是 人 調 陽 虚 樂 洲 非 則 實之 監 爆 明 未 則 以 腐 屎 實 屬 2 陽 陰 治 解 酸 经了 ブデ 39 71s 痛 Secretary Control of C 大 病 1/11 胛 燥 浦 也 徵 襲 陰 此 陽 湖 社 矣 故 陽 則 陰 雙 318 中 们 不 訂正傷寒論註太陰全篇 倍 道 腹 被 解 陷 行 1/11 實 滿 加口 膊 表 除 岐 因 芍 Taraban Tarab 時 裏 陽 腹 表 屬 藥 湖 痛 賞 法 太 H) (漏 證 小變 陰 111 之時 則 Thi Thi 未 1711 時 冒 凡 7111 不 解 浦 實 建 蒲 液 安 大 漏 陽 是 黄 中 验。 是 池山 ill To 河区 头! 17 E 道 必 則 K 11 E 人 岭 虛 温 利 傷 賞 劑 WAI 陰 目 也 FII 15 - The 涌 加 兆 相 · · 陽 見 人 排 氣 法。 陰 陽 Course of the Co 111,

切計

陰 計集 借 爲 程 故 喻 鲍 陰為 行 4 也 知 氣 病 昌 时 另房 湯 車延 present parties 大 日 弱 帧 則 日 此 IL 黄 其 涛 易 易 此 1. 相 言 对 中 段 其 發 也 推 沙心 動 太陰 人續 HT 之 爽 腹 明 越 不。 滿 啐 时 省 質。 也 也 知 近 雌 自 衇 1/11 與 痛 陽 易易 大 滅 不 便 明篇 利 便 車車 恐 Y 治之之法當 續 以 設當行大黃为藥者乞減 鞭 氣 自 中 胃 者 下 氣 才經 耳. 利 不論 相 雖 易易 小 有 難 腹 發 在 以 堪 然必 衇 明 腹 陰 痛 陽 在 峻 消 息之 攻 續 明 陽 不 自 凡 其 宏 日 若 便 便 用 不 飯 其 利 轉 易 攻 弱 與 動 省

H

自 傷 脾 即集等。 利 寒 血底 者 故 亦 涯 氣 腐 琥 浮 亦 薬 減 明月 目 Thi 能 减 穢 目 脈 先 This 之 目 7 出始》 當 發黃 緩 味 答 或 鞕 之 氣 弱 酸 手 後 去 問 恶 世 足 觚 1.1/2 1 故 寒 大 續 至 溏 黄 自 七 雖 也 弱 自 国 淵 不 能 未 貝叮 利 沓 若 氣 傷 訂正傷寒論註太陰全篇 雖 定 胃氣 雖 繫 成 餒 有 黄 暴 在 腹 萸 不 充 痛 太 皆 煩 故 峻 岁 是 仲 陰 滅 下 减 恐傷人 要非 太 景 利 用 以溫 太黄芍 为 陰當 日 樂 氣 陰 發 能 易为 餘 藥 身黄 調 別果 行 到这 所 那 必 氣 陰 自 岁 能 此 生 恋 太 何 便 氣 傷

祖 务 註集 傷 也 轉 濕 验 濕 寒 故 以 熱 熱 緩 东口 屬 陰 目言 脈 金 故 世 血底 陽 更 相 热 浮 也 浮 剑 明 蒸 浮 不 老 1/11 緩 自 今 不 太 勢 緩 似 雖 手 旣 陰 緩 派 利 少 必 故 屬 手 陰 類 之 足 不 發 足 溫 颟 濕 黄 厥 太 證 不 能 熱 濕 雖 陽 知 衇 然 陰 發黃 太陰 者 中 泮 暴 與 之 小 燕 爲 厥 風 緩 煩 便 瘀 繫 手 飓 也 逆 क्ता 下 利 家素質 若 當 在 足溫 利 所 手 則 太陽今手 至七 濕 發 以 足 日 + 身 自 則 為 下 河流 八 黄 餘 邪 泄 繫 爲 牌實 日 小 不自 行 在 則 而 便 足 必 大 不 太 不 自 常 便 溫 容 陰 發 也 似 腐 利 故 自 鞭 也 太 太 則 郑 者 陽 陰 為 頁引 fre ! 鹹

印度をするない 積 雖 虚 浮 雖 藏 則 蛌 應 寒之痛 是爲 緩 影 暴 誤 浮 腐 手足 緩 矣 小 旄 煩 煩 穢自 神 便 下 目 頻 家 江 利 自 陰 太 利 不 當逐 11/1 質 鬱或 陰 溫 凉 利 有 H 得 似 世 in the same of the + 者 知 7 1 自 沙 其 餘 不 有 温 緩 而 訂正傷寒論註太陰全篇 能 7 人 陰 行 陰 必 發責 湯 K **川**军 110 手 得 自 道 足 也 便 氣 證 若 實陰道虚 陽 溫 實 北 陰 然 不 2 其 所 欲 利 而 不 機 衇 辩 非 周 以 利 必 發黃雖 然者 虚 當自 護 證 牀 M 寒之比 則 陽 貝リ निग 陰 止浙 冒湯 以 必 不干 血派 4 陽道岩 馬區 發黃 四 寒 不 其 至 逆 沅 LI 用 濕熱 事自 寒 法 且 七 To 然 爲 則 省以 無 H 加

太陰 稳 為医西 計集 in-motions. 肢 别; 世 7 程 琥 爭 陰 擾 二 煩 風 知 爽之證 因 也效 H 住 見陽明 目 金 四 目 此 暴發 组 下利 風 月支 傷寒陰邪 則 煩 則 者 痛 腐 先 也陰陽以浮沉言夫以 謂 煩 之長 煩 煩後 穢 陽 燕 燥 此 當 7股 太陰病是從 者 岭 也 也 利是即 去 陰牆而長者為欲 死 則 故 為陰病 汝 自 此亡 為 耳 利 宏 家 先 太陽 之正 利 陽衇 用 Hi 四 後 滅 氣質故不受那 浮 中 遊 煩 邪傳府故 微沉濇之太陰 風 愈 傷 是 風 傳 正氣 陽 來 邪 者 脫 故 也 नित नित 有 故 欲 邪 四 血反

即复路行位監門後 太陰 趱 邪之解 当 此 病 切七 病當 喻 痛 向揭 旺時故 切 欲 見 自愈也 於四 解 日後潘之中 音話屬言 也 月寺 必 邪 從 肢凡太陰病 於所 不能 亥 音 至北 府 勝 旺之時亥子丑乃太陰所旺之時 更察其稣 訂正值 穢 上 1/11 自 习於 峽浮 廢 解 矣 之長而不短知元氣未滴 者多是太陰中 E. 風 也當

